

生徒会

平成15年度 前期生徒会活動

前期生徒会会長

美馬 のぞみ

新しいクラスになり、クラスの皆と仲良くなれるかどうか不安を抱きながら、平成15年4月がスタートしました。その不安も春の校外学習で消え去り、5月に入ると東住吉は体育祭ムードでいっぱいになりました。今年度から黄団がなくなり、赤・青・白・緑の4団となりました。生徒自身が取り組む準備活動は、連日放課後遅くまで続き、1年生から3年生まで全員の気持ちが一つになって行くのが感じられました。マスコットの構造も複雑さを増し、動くものも登場しました。スタンドもまた階段状のもの、日陰をつくるための屋根のあるもの、色と

りどりの風船で飾られたものなど様々な工夫が見られました。また、アトラクでは、男女の息のあった踊りや難しい技が多く見られ、どの団が優勝してもおかしくないほどレベルの高いものでした。そして、応援は伝統の型が今もお引き継がれており、迫力満点でした。新拳には現代の流行や有名なものが伝統を壊さないように取り入れられ、各団とも個性あふれるものでした。体育祭本番終了後は、皆が感動の涙を流し、東住吉の体育祭の良さを実感しました。

9月19日・20日の両日には文化祭を開催しました。劇は、芸能文化棟の機材を使って本格的にできるため、多くのクラスが参加し、笑いあり、感動ありの劇が真剣に上演されていました。今や伝統となった「東住ランキング」、芸能文化科生徒による寄席、それぞれが工夫を凝らした模擬店など、大いに盛り上がった2日間でした。

平成15年度 後期生徒会活動

後期生徒会会長

山下 ひかり

後期に入るとすぐに「あいさつ運動」を始めた。生徒も先生も巻き込んで、全員が気分よく登校できるように、学校が楽しくなるように…。1週間の始めと終わりにやったが、始めの方は私たちが挨拶をするだけの一方的なものだった。だから初めて挨拶を返してもらった時は、みんなで感動したのを覚えている。

次にまた、文化祭を盛り上げるために、150校もの高校に質問をして多くの回答をもらった。質問の内容は、“文化祭ではどんな料理メニューがありますか”、“料理の素材で許可されているものに、されていないものは何ですか”などである。その回答を参考にして、今後の文化祭で提供できる料理のメニューを増やすことを目標にした。私たちのやったことにより、これからの文化祭で今までよりメニューが増え、楽しむ人も増え、全員で盛り上がれ

たらいいと思う。

卒業式。卒業する先輩達に何かしたくて、在校生で送る歌を歌った。卒業式に参加する在校生は、昼休みに集まり何度も練習した。その成果で卒業式は大成功に！先輩達は感激して泣いていた。「ありがとう。」「ほんまによかった！」などの言葉をたくさんいただき、私達も感動した。つらいこともあったが、やってよかったと思った。これも、伝統になっていったら嬉しい。

そして、1年生歓迎会。多分今までで一番大変な仕事だった。1年生の担任になる先生方やクラブ代表者に、一言ずつメッセージをもらい、それらを全部集め、コピーして、東ねた。大変な作業だったけれど、みんな楽しんでながらできて、いい思い出になった。

体育祭については、団分けと実施種目を決めた。男女のクラス分けについて何回も話し合いをして、全員が納得いくようになった。種目では、パン食い競争と役付き演技を加えた。すごく盛り上がった体育祭になった。

平成16年度 前期生徒会役員

会 長	菊本 翔太 (2年3組)
副 会 長	土佐 裕之 (2年8組)
会計部長	黒木友香里 (2年5組)
体育部長	中森 勇介 (3年1組)
文化部長	三村 理紗 (2年2組)
厚生部長	吉岡 侑美 (2年8組)
総務部長	大岩 夕華 (3年1組)



前進と可能性

平成16年度 前期生徒会会長

菊本 翔太

東住吉高校創立50周年にして、生徒会存続危機に瀕した。なんと自ら立候補したのはたったの二人だけという事実。そこで、急遽残りのメンバーが推薦されたのでした。その中のひとりが私です。

先生から声をかけられたそのとき、少々戸惑いました。また、五分の嬉しさと五分の葛藤の思いでした。私は、果たして生徒会長を自分が務めていいのだろうか、自分自身と対峙したのです。しかし、友達や先生方から後押しされて、ついに決心したのです。私以外にやる気のある人がいないのだから、私が生徒会長として、この東住吉高校を前進させていこうと心機一転しました。

当選後、まず私は、生徒会はどのような態勢と行動をとるべきか考えました。生徒会という集団は、様々な価値観からなる集団なので、まず価値観の相対化を図ることをすべきである。また、生徒の代表者として、何事にも主体性を持って行動し迅速な対応と真摯な姿勢を常に心がける必要がある。それと、周知のように、私は初めて生徒会役員を務めるので、生徒会についてまったくの知識不足であった。だから、それについて情報収集ならびに衆知を集めなければならぬ。

そして、先ほど述べたことを解任時まで、意識することができるのなら、生徒会は無数の可能性を秘めていると言える。我々執行部は各自が役員としての有終の美を飾るべく、一生懸命務めることをここに誓います。

年間行事

平成6年度

月	日	曜	行 事
4	7	木	1年心電図 転入考査
	8	金	始業式 入学式
	11	月	離任式 対面式
	19~21		定期健康診断
	22	金	前期生徒会役選
5	6~9		3年実力考査
	13	金	防災非難訓練
	20~25		中間考査
	26	木	校外活動
6	10	金	P T A 総会
	19	日	体育祭
	25	土	芸能実習棟落成式
	26	日	同窓会総会
	30	木	1年学年懇談会
7	1	金	2年学年懇談会
	6~13		期末考査
	8	金	P T A 大学見学会
	14・15		水泳講習
	20	水	終業式
	21~30		3年補習授業
8	22~31		3年補充授業
	31	水	転入考査
9	1	木	始業式
	2~5		実力考査
	8	木	中間成績会議
	24・25		文化祭
10	13	木	生徒会役選
	14	金	創立40周年記念行事
	15	土	創立記念日
	20~25		中間考査
	29	土	同和教育映画鑑賞
11	2	水	1・2年登山行事
	2~5		3年実力考査
	11	金	P T A 総会
	16~18		教科担当者会議
12	9~16		期末考査
	24	土	終業式
1	7	土	転入考査
	9	月	始業式
	10・11		1・2年実力 宿題考査
	25~30		3年学年考査
	29~2		2年修学旅行
2	27	月	卒業式
	28~4		1・2年学年末考査
3	15	水	終業式

平成16年度

月	日	曜	行 事
4	7	水	1年心電図 転入考査
	8	木	始業式 入学式
	9	金	離任式 対面式
	21~23		定期健康診断
	26	月	前期生徒会役選
	30	金	校外学習
5	7・8	桂	3年実力考査
	7	金	体育祭結団式
	23	日	体育祭
6	7~11		前期中間考査
	10	木	第1回P T A 総会
	23	木	芸文学科教師用説明会
	27	日	同窓会総会
			防災訓練
7	5~9		3年7月考査
	12・13	水	水泳講習
	12~16		個人懇談
	20	水	終業式
	21~30		3年補習授業
	24	土	芸文卒業発表会
			P T A 大学見学会
8	19~30		3年補充授業
	30~		1・2年授業
	31	火	転入考査
9	3	金	芸文中学生用学科説明会
	17・18	金 土	文化祭
	30~		前期期末考査
10	~6		前期期末考査
	6	水	前期終業式 普通科説明会
	7	木	秋期休業日
	8	金	後期始業式
	15	金	創立記念日
	23	土	創立50周年記念行事
	28	木	後期生徒会役選
11	9	火	第2回P T A 総会 公開授業
			教科担当者会議
12	1~7		後期中間考査
	14~17		2年修学旅行
	20~24		個人懇談
1	7	金	転入考査
	25~31		3年後期期末考査
2	1・2	水 木	1・2年実力考査
	28	月	卒業式
3	1~7		1・2年後期期末考査
	15	火	終業式

座談会『架け橋』



出席者

村田 憲司 (学校長)

山内 正美 (PTA副会長)

山上 進 (芸能文化科科长 理科)

小松 純子 (英語科 1 学年担任)

清水 一意 (PTA副会長 第16期生)

前田 静男 (元本校教諭 第19期生)

吉田 允彦 (国語科 生徒会部)

松村 光庸 (司会 総務部長 社会科)

司会 どうもお忙しいところ、ありがとうございます。創立50周年の座談会ということで開かせていただくことになりました。最初に趣旨みたいなことを少しだけ話させていただきます。

その歴史に関することは、卒業生や多くの方から原稿を寄せていただいています。それでこの座談会では、過去、現在から今後の東住吉へとポイントをシフトしてはどうかと考えています。さまざまな立場から参加していただいて、深めていきたいなということです。

話は弾んでいくことなのでしょうが、時間の許す限りの中で、ここの前の方に置かせてもらった柱ですね、これはザツとした柱なのであまりこれにこだわらず、ざっくばらんに自由に話をしていた

いたらと思っています。こういう座談会ですので、最初に校長の挨拶とかいうものもありません。また卒業生の方もおられるので、もちろん思い出も話していただけたら話も膨らんで結構かなと思っています。

では最初は自己紹介を兼ねながら、自分と東住吉とのかかわりというあたりから行きたいと思います。

村田 どうも今日のごくろうさまです。私はいわゆる民間人校長として、30年間大阪の新聞社で働いてきました。大阪の府立高校出身者で管理職経験のある人たちから校長を一人採用するということで、それに応募して、昨年4月にこの学校に赴

任することになりました。

私は基本的にと言うか大体合理的に思考するほうなんですけど、一つ不思議な縁を感じたことがあります。どういうことかと申しますと、去年の



4月の入学式に体育館に行きまして、ふと正面を見上げると校歌の歌詞が壁面に掲げてありました。素晴らしい校歌なんですけど、安西冬衛という詩人が作られた校歌で、私もいい歌だなと思いつながりながら見てたんです。作曲者のところを見ると野口源次郎とありました。皆さん安西冬衛はご存じでしょうけど、野口源次郎はご存じないかも知れません。この人は実は私の母親のいとこなんです。なんとまあ不思議なことがあるなど、あまり縁起を担ぐわけではないですけど、何かこの学校と私と縁があったのかなと、逆に励まされたようなことでした。この1年間何もかもが初めての経験でいろいろ大変でしたけれども、なんとかやってこれました。そういうことで1年経った感想を述べますと、結論的になりますが非常にいい学校だと思えます。やはり50年の伝統が見事に生きているし、生徒たちが温厚というか、おおらかな生徒が多いので、本当にいい学校に赴任できたなと思っています。よろしくお願いします。

前田 前田と申します。ここに元教諭とありますように、3年前に東住吉から平野高校へ転勤しました。また東住吉の卒業生で19期生です。入学して一番びっくりしたのが、下駄箱が木製で、木造校舎の端っこにありまして、それを見たとき「ああ、高校生になったんだな」と



いう気がしてそれがすごく印象に残っています。

冬はすきま風が入るような校舎で、また夏は教室の横の水洗ではない旧式のトイレから、窓を開けたらすごい臭いがするような、おおらかな田舎やなという、今では想像もできませんが、そういう学校で3年間過ごさせてもらいました。一番印象に残っていますが、2年生の夏前に行った、修学旅行の代わりになる信州での教育キャンプですね。今どきそういう修学旅行をやっている高校はないように聞いています。大学卒業後、1年間ここで講師をさせてもらい、続いて工業高校を経て、それから又、ここ東住吉で13年間お世話になりました。中学生の頃から数えましたら、半分以上東住吉高校とかかわりを持って大変誇りに思っています。本当に自分の財産だと思っています。

教員になってからの思い出としましては、山岳部の顧問をして、学生時代は他のクラブでしたが、山に触れ合えたことが一番です。もちろん生徒を通していろいろな思い出はありますが、自分自身の趣味を広げてもらえたという点でも、10数年間の山岳部顧問をさせてもらったことが印象に残っています。

清水

清水です。本校16期の卒業生です。前田先生が今言われた木造校舎のこと、私も同じ懐かしい思い出があります。自分自身の一番の思い出は体育祭です。現在もほぼ同じ形で引き継がれています。当時1学年450名ぐらいの生徒数でしたから、規模の方は当時の方がやや大きかったと思います。その中で3年間応援団をやりまして、校歌を何百回と歌った記憶があります。その体育祭が今も子供たちの中で引き継がれてきているのは、本当にうれしいことです。



私が2年生のとき図書館ができて、図書館の使用手引きを、私は美術クラブでしたが、各クラブの2年生で担当して書いたのを覚えています。現在図書館の入り口に展示されている大きな油絵は、同期のクラブの友達が描いたもので、大変懐かしいです。

その後、妹と弟が続いて東住吉高校に来まして、私もずっとクラブの顧問の先生を訪ねたりして、結構長い間この高校に通ったような気がしています。

山内 P T Aの副会長をさせていただいております山内です。子供が今3年生ですから2年半のお付き合いで、家も大分離れていて、あまり高校の様子もわからずにこの高校に



通わせているみたいな形なんです。これも何かの縁なのかも知れませんが、主人がここの卒業生で、結婚する前から高校時代の話をよく聞かされていて、一番の思い出には体育祭と文化祭の話ばかりです。また、昔はバンドをやってもてたとか、そんな話を大分聞かされています。子供がここの高校に合格したときも、主人が一番喜んでいたり、先日の体育祭にも一緒にビデオ撮りに来たんです。今でも校歌はきちんと覚えていて、子供と一緒に口ずさんだりしています。私も時々そんな主人をからかったり、主人と子供が共通の話題で話しているのをそばで聞いている、そんな感じ

山上 私は赴任して7年目になります。現在芸能文化科主任ということで、仕事は芸能文化科の運営です。運営と言いましても、芸能文化科を支えているのは20数名の特別講師の方たちで、この先生方

に気持ちよく指導していただくように努めています。実は兄が5期生で、私もよくこの辺りに来たのを覚えてるんです。昭和35年頃のことですが、周りはほんまに何もなかったように覚えてるんです。



小松 英語科の小松と申します。私立の学校、一般企業を経て、公立での初めての採用が東住吉でした。去年のことです。東住吉に初めて来た時の印象は、軽いカルチャーショック



を受けたようで、こんなに一生懸命に取り組むことのおもしろさを知っている生徒がたくさんいるなんて、こんなに心が優しくて人なつっこいなんてと非常に驚きました。そういう気持ちで、生徒たちに癒されながら、1年を過ごしてきました。今年は1年生の担任を持たせていただいて、より深く生徒たちと接することができるのではと思っています。ちょっと身近なお姉さんの存在として。英語の方は、若い力ということで、どんどん今からの英語を教えていけたらと思っています。今日、クラスで、「うちの学校の印象は？」と聞いたら、生徒たちが口々に「真面目なところがいいところ」とか「なんでも必死にやる」「先輩がいい、先生がいい、クラスがいい」とか言ってました。そういうふうなことを生徒自身が思っているというのは、やっぱり学校がすごくいい証拠だと思っています。よろしくお願いします。

吉田 この座談会のカメラマンも兼ねています。赴任して6年目の国語科の吉田と申します。公立高校

はこれで3つ目になります。教師生活も17年目に入りました。ここに来るまでは生活指導が中心の学校におりましたので、東住吉に来たときは転職したような錯覚を覚えました。



1年ぐらいは慣れなかったんですが、2年目ぐらいからは「これがあるべき姿なんや」と納得して、いろいろ楽しませてもらってるという状況です。授業の方も、こちらがやればやるほど、向こうは一生懸命についてくるという状態です。クラブは写真部と剣道部の両方を持たせてもらっていますが、打てば響くとは少しオーバーかも知れませんが、こちらの指導の仕方によって生徒が大きく変化する、そういう可能性を秘めた子がたくさんいると、最近はつくづく思うようになりました。よろしくお願ひします。

松村 申し遅れましたが、私は司会の松村です。司会者はこういう会合では発言しないものとなっていますので、自己紹介を少しだけさせてもらいます。



私も今年で8年目なんですけど、教師生活の方も終わりに近づいているんですが、昔近くの北田辺に住んでいて、この辺はずっと田圃が広がってましてチョウチョやトンボを取る、いわゆる私のプレイゾーンだったんです。東住吉では同窓会報が配られてるんですね、それで、小学校時代の仲良しの女の子から「同窓会報を見たよ、あんた東住吉の先生になったんやね」と早速電話がありました。びっくりしましたけどね。また、中学校の同級生に東住吉に行った子が何人もいました。だからやはり縁があるなど

いう感じがします。

この学校は3校目なんですけど、何よりも強く感じたのは、先ほどから出てますように、生徒たちが非常に素直だということで、自由な雰囲気があるということですね。これはすごくいいなと思っています。それから体育祭は本当に府下でも他の学校の先生にも見せてあげたいような立派なものですね。非常に感心するのは、われわれの先輩の先生方がよくこういうやり方を考えられたと思うんです。応援やアトラクは自分を表現したいと思う元気な子ですね。スタンドやマスコットは少し控えめな子ですね。クラスにはそういう個性を持ったいろんな子がいるわけで、それらがみんな体育祭に参加しているというところが、この学校の体育祭の素晴らしいところなんですね。やはりそういう伝統ですね。是非続けていってほしいなと思っています。

司会 それでは次のところに、東住吉のよき伝統、優れた点、その辺をもう少し深めていったらと思います。さらにその中では、改善すべき問題点というのも、50年も経ってますので、いろいろあるかと思っています。

前田 そしたら最初に。19期生で入ってきた年ぐらいから制服の自由化というのが、他の学校でもポツポツと起こり始めていた頃でした。私が2年生ぐらいの時、生徒会が中心になって、全校集会をグラウンドでやりました。その結果、1年以上かかりましたが実現しました。その頃の3年生の先輩で、髪が腰のあたりまであるような男子生徒もちらほらいて、そういう雰囲気を、入学した当初はびっくりしたんですが、高校生になったんだなと実感しました。制服が自由化になり、その後もずっと引き継がれていまして、松村先生がおっしゃったように生徒が自由でのびのびしていると、そうい

ういい学校になって今喜んでるんです。

もう一点は、校歌にもある自主独立の精神。この学校の特徴はやはり自主独立の精神を持った生徒が多いことです。その一つが制服自由化。あるいは体育祭でも。10年前ぐらいから生徒の力量不足と作業の危険性もあって、教員側の支援が増え始めました。私の頃は先輩です。大学生や社会人の先輩が、体育祭前になるとしょっちゅう学校に来て後輩の3年生を指導していました。自分たちの体育祭は自分たちでやるという自主独立の気概があったような気がします。卒業生が伝統を伝えてくれていた点を懐かしく思います。

山内 今の話に続けて体育祭のことなんですけど、うちは今年3年生で応援団をやらせてもらったんです。私もびっくりしたんですけど、去年の先輩なんか来て、伝授式というのがあるんですってね。応援の型なんかを先輩から受け継いでいるノートとかがあって、それで10年前の応援がこんなだったというの…先輩たちに指導してもらったことで、来年は自分たちもその伝統を引き継がないといけないという責任のようなものがあるというの、実際子供がそういうのにかかわって、親としてはすごくびっくりしました。伝統を大事にしようというのが、子供たち自身の中にずっと伝わっていったんだなと感じました。

校長 体育祭は素晴らしい伝統になっていて、私も感動しました。準備期間が2週間ほどあるわけですけど、毎日、生徒の帰宅が遅いと保護者の方からお叱りを受けることもあるんです。終わった後、エネルギーを使い果たしたというか、切り換えがなかなかで…。今の子供たちはその辺の切り換えがうまくないという気が少ししてるんです。学校行事としての体育祭はもっともっといいものにしていけばいいんですが、終わった後に切り換えて、

勉強に向けていくいい方法はないものかなと思って。先生たちもいろいろ考えておられるのですが。

司会 切り換えがポイントですね。生徒のエネルギーというのは、私も感心しますが、ものすごいですね。

山上 でもやっぱり、そうやってガス抜きというか、そういうこともして。型通りばかりやってると、なかなか面白くないですからね。

司会 上手に切り換えができれば、何も言うことないですね。

校長 山上先生、今年は確か緑団が優勝しましたね。芸文科の生徒が入っている団はやはり強いですね。芸文科ができて、いろいろな面で力を発揮する、そういうよいところが表れていると思うんですけど、その辺はどうですか？

山上 確かに芸文科の生徒は、普通科の生徒とは少し違いますね。自分なりの目的意識、生き方、自己表現といった大本の所ができていて、こういう場合自然と力を発揮しますね。自己表現をして、さらに自己表現を伸ばしていくということで、本当に指導力がありますね。今回のアトラクの自作の獅子舞でも、自分が率先してしんどいことをやるというようなことはすごいですね。

昨日も3年生が芸文科職員室へ来て、7月の卒業公演について7時ごろまで、かなり議論しました。自分たちの長所短所に応じて、適材適所を判断していました。ただ与えられたことを消化するのではなく、自分らで問題を意識して発展解決させてゆく、そういう能力が優れているようです。

清水 体育祭が終わった後は、真っ白ですね。準備期

間は、10月から11月にかけてだったと思うんですが。その頃は遅く残っても、やはり7時まで。建設団の女子の子が昼頃からご飯を準備して、夕方に大変な数のおにぎりを握って、一人に二つ配ってくれました。それを食べて、最後パワーでガツとやって、他は電気がなく暗くなるので7時には一応終了です。その間は一生懸命やるもので、終わった途端には何もかも虚脱状態でした。3年から1年まで一つになって取り組んでいたのが、終わってしまうとそれぞれ個に戻っていく。それが当時先生たちからも、「そこをもっと大事にせなあかん。全体としてできたものを繋げていかなあかん」と。でもわれわれにしたらもう燃え尽きてしまったという感じで、なかなか…。体育祭後は目標がみえないみたいな時期がちょっとありました。

司会 山内さん、今そんな状態ですか？

山内 そうですね。親の立場から言いますと、3年生になって、学校の状況が、やっとうどうやら分かってきた。多分1年生の親御さんは入学してまだ間がないのに、3年生から言われて練習や準備に行かなくてはならない、それで勉強も疎かになりやすいという子供の立場を理解するのが、すごく不安だと思うんです。子供からは「学校に問い合わせことは絶対にいけない」と言われているし…どうしたらいいのかなと、やはり親としてはすごく不安なんです。

例えば入学当初に「ここの学校の特色としてこれには力を入れていて、こういう時期にはこういうことを子供たちは経験します」というようなことを、何か親にもう少し説明なりがあると…。体育祭だけではなく、この学校は子供が自主性を持って動いていることは確かに感じますけれど、子供たちの親御さんは割と熱心な方が多いのではと思うんです。熱心ということは、やはり学校に対

しての関心が強いと思うんです。私はPTA関係で学校に来たり、先生方とお話をする機会がありますが、一般の親御さんが関わりを持つ場とか、学校の情報が入ってくる場が、もう少し違う形であつたら、協力的な親御さんも多いと思うんです。芸文のお母さん方はお母さん同士でまとまりもあり、子供たちとの触れ合いもあるんですが、普通科はそうでもないようなんです。

司会 問題点が出てきてるんですね。

山内 そうですね。

司会 昔は本当に7時で終わって、やめたんですか？

清水 応援の練習とかはそうでしたね。夜間照明がある場所とかがありませんでしたので。6時になると暗くなりだすので。

前田 そうですね、9、10月でしたから。

清水 そうです。帰る道に、針中野の駅までポイントを決めて何人かが立って、トラブルが起こらないように女子生徒を男子生徒が帰していくようなこともしていましたね。

司会 山内さん、オフレコですけど、ほんまは何時頃帰ってるんですか？

山内 怒られないかな？かなり遅いですよ。

司会 学校は7時で終わってるんですからね。どこかで密かに練習して…。

山内 そうですね。多分雨の日なんかも、どこかで…。

校長 先ほどの山内さんの話は、非常に耳が痛いというか。学校のいろいろな情報を皆さんに公開していくのが教育改革の柱の一つなんです。実際はなかなか情報公開ができていないなど。私もこの1年、東住吉のことをもっと保護者に知っていただかなければと、ホームページとかいろいろな形でやってきたわけですが。おっしゃるように、せっかく信頼していただいたり、いっぱい協力をしていただいているのに、学校のことがよく分からないのでは、困りますよね。

それともう一つ、構いませんか？ 体育祭も含めて、この学校をもっとアピールしなければならぬ。とすると、校長としてやるとすれば、今の体育祭とかスポーツ、それから東住吉の場合は芸能文化科、それをもっと広げて芸術ですね、芸術教育、情操教育です。それとやはり基本的には学問というか授業なので、この三つのバランスのとれた学校教育を進めていけばいいんじゃないかと、自分では考えているんです。

なかなか言うは易しで、先ほどおっしゃってた「自主創造の精神」の石碑、私もたまに心が弱ると、あれを見ながら何とか頑張らないといけないと思っているんですけども、本当にあれに尽きると思うんです。

司会 小松先生、1年生が体育祭を経験しましたね、どんな様子ですか？

小松 自分のクラスが一番分かりやすいと思うんですけど、私のクラスは青団で、賞が一つも取れなくて、当日はがっかりした分、立ち直りが早かったような気がします。もう次、次みたいな感じでね。多分3年生や2年生に比べて1年生のほうが早く、文化祭のほうに興味に向かっていくという感じがします。

司会 一つも取れなかったのは初めてなんです。今まであまりないことです。

山内 あれはかわいそうでしたね。確かに「芸文ってすごいな」と見ていたけど、芸文のクラスをうまく割り振りできたらね。

小松 緑団には3年生と2年生の芸文クラスが二つ入ってたんですよ。

山内 そうですよ。だから余計にパワーが「もう、すごかった」みたいな感じで。うちの子は3年生だから、今度文化祭は合唱コンクールになりますね。「優勝は芸文だろうな」みたいなことを言ってました。

体育祭は芸文科の生徒と普通科の生徒が一緒にしますが、普段は普通科と芸文科の子たちはどの程度お互いのことを理解できているのかと思います。普通科の親は「芸文は何をやってるのかな」とあんまり理解できていないのではと思います。その辺のギャップを埋める必要性がありますね。

山上 授業の交流とかできましたら。芸文というのは、いわゆる古典芸能を学ぶので、基本的にはマンツーマンなんです。師匠と弟子の関係ですね。それを40人、最小でも20人が一緒に教えてもらいます。そういうわけですから、普通科との交流というのは、できたら選択授業で芸文の授業も受けられるようにすることも一つの課題やと思うんです。

山内 せっかくですもんね。

山上 1単位でも2単位でも。あれだけの立派な講師陣ですからね。それはもう…課題ですね。

司会 前田先生、どうでしょうか？

前田 芸能文化科のこと少しだけ話させてもらいます。一昨年芸能文化科10周年の式典もされて、これから東住吉高校といえば、「あっ、芸文がある学校やな」という人がますます増えると思うんですが、東住吉高校の発展というものを考えた時に、抜きにはできないと。本校の卒業生でも3名、桂吉朝さんの門下に入っており、私自身も落語が好きで、個人的にはよく行ってます。

「東住吉高校の芸文科ってどんな学校？」と今の平野高校でもよく訊かれるんです。「芸能人になる学校ですか」といまだにおっしゃる方も多いです。校内の保護者の方でも、普通科の親御さんはそう誤解されている方もおられるようで、これをもっと世間一般の人に「そうではなくて、芸文科はこうで、7クラスほどの普通科はこうですよ」と、同時にアピールしていけばいいと思います。

そういうことで、今後さらに50年間、100周年なんですけども、今よりもっと、先ほど言いましたように自主独立の、そういう生徒を育ててもらって、一層、社会で活躍するような卒業生を出していただくよう、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

山上 確かに芸能文化科は充分理解されていない面もあると思うんです。日本人でありながら古典芸能、演芸を本当に理解しているかといったら、私も芸文科にいて「なるほどなあ」というような新しい発見の連続なんです。元々マンツーマン形式で傳承されてきた古典芸能を、この東住吉高校が新しい現代教育の中に取り入れたというのは非常なチャレンジなんです。そうやって、できればうちの学校だけでなく、他にも芸能をやる学科が出てきて、また一つの教科として出てくれば、誤解とか

がなくなってくるのではないかと私は思うんです。

私も個人的に古典芸能ではないんですが剣道をやってきました。剣道も江戸時代は古武道でして、師匠と弟子の關係でやってきました。明治になって、東京高等師範学校の現代教育の中に取り入れられたんです。柔道もそうです。ところが学校で教えない槍なんかでしたら、今は減ひています。それと一緒に日本のよき傳統というものを学校教育にのせると、發展させる大きな力になりますね。50年後には日本人がもっともっと古典芸能に親しめるようになってほしいと思ひます。

司会 吉田先生も剣道をされてますね。そういうのに関連してでも…。

吉田 去年3年生の担任で、進路指導部にもいましたので、1年間見てきた進路のことを中心に話をさせてもらおうと思ひます。

先ほどから切り換えの難しさや、受験勉強への入り方の遅さというか、これが結構ネックになっているというのがありました。

昨年度47期生はそれなりの結果を出して、えらい頑張ったなあと思ひます。そもそもこれもオフレコみたいなものですが、入学当初は少ししんどい学年やと言われてたりしていました。「今年はちょっと違うで」と言われたときは、何とかしてこの子らの進路保証はしてやらないかと思ひました。そう最初は言われていたものの、基本的に持つてる力はあまり変わらないというふうに思ひましたし、やはり指導で大分変わるのではと感じました。

多くの生徒は体育祭後に受験勉強に入りました。進路の相談に来た子、去年の緑団の子で関学に合格したんですが、「一番しんどかったのは何か？」と訊くと、「切り換えをいかに早くするの

かが、ものすごくしんどかった」と、それを振り返って言うてました。実際夏ぐらいからみんな真剣に目の色変えてやりました。スタートが遅れた子は、どうしてもなかなか最後まで取り戻すのが難しかったようです。ただし、やはり底力がありますので、模擬試験なんかでもさんざんな判定が出てましたが、それでもめげずにずっと勉強をやり続けた子らは、本当に遅かったですけれど、12月ごろになってB判定ぐらいになって、何とかなるかもしれないと思いました。それで最後の追い込みであるような結果を出してくれたようです。

進路がらみで、もう一つ。芸能文化科のほうの進路なんですね。大学に進学する子に対しての進路保障がなかなかやっぱ大変だなと。中学から高校を選ぶ時に、どれだけ自分の進路が見据えられているかというのは、なかなか難しいことですし、芸文科の子が理系に進みたいく思っても、それは並大抵のことじゃないわけです。文系のほうでも大学受験というものを考えると、相当ハンデを強いられていると思います。

芸文科も結構大学に入ったんですけど、強いのは自己アピールできるところで、関大などのOA入試。毎年芸文は関大に通ってると思います。一番感心したのは、一般入試でも関大に通った子がいるんです。卒業公演や何なりで、相当本人の忍耐と信念がないとできないことです。芸文科は大学進学希望が結構多いんです。すぐに芸能の世界とかに入っていく子はむしろ少なく、まずは大学に行って、いろいろなことを勉強してから、それから考える子が多く、そうするとやはり芸能文化科のカリキュラム上の問題がありますね。大きな課題だと思います。

校長 今言われたように、能力的に高い生徒が来るわけですから、何とかその3年間で学校行事も大切に、クラブ活動もやって、学力も入って来た時

より出る時に伸びるようにやっていかないといけない。カリキュラムの問題も含めて、50年後をめざして、本当に頑張らないといけないと思います。

それと今、教育にかかわる家庭の経済負担を軽くしなければならぬ時代なので、別に数値目標を掲げてどうのということはないですけど、東住吉高校の授業の予習復習をきちんとやれば、国公立に現役合格するようにするのが、学校の使命と自分に言い聞かせています。補習等に力を入れておられる先生方もたくさんおられるのですから。

それと、少子化が進む中で府立高校とはいえ競争の時代を迎えていますので、やはり先輩の方たちのためにもこの学校を守り、発展させなければなりません。そういう意味では競争時代に生きのびるだけの普通科の特色も出すべきだし、成果も出さねばなりません。「東住吉高校に入ってよかった」とはよく耳にしますが、「あの学校を卒業してよかった」となっているかどうか。

司会 さっき吉田先生がおっしゃったけど、同じような大阪の府立高校でいいますと、ここの生徒は進学成績も頑張っていますね。職員会議に出る資料なんか見たらよく分かるんです。そういう意味では学校全体としていい方向に進んでいると思うんです。体育祭の問題、芸能文化科との関係といういろいろ出てきましたが、そんなのも含めて…。クラブはまだですね。

吉田 クラブ中心に話します。写真部の顧問をしています。実は体育祭の時に、「写真部のOBです。32期生です。」と声をかけてくれはった人がいるんです。「うわさで写真部はなくなったと…。ところが体育祭で写真部の腕章をつけた子が撮ってるから、ものすごくうれしかったです」と。随分昔から、何十年も前から写真部はあったんですね。ただ波があって、特に指導者がいなくなるとどう

しても休止状態になったり。僕が来た5年ぐらい前はほとんど活動できてなかったんで、何とかしたいなと声をかけて部員を増やして立ち上げました。そういう子は、やはり控えめで真面目で、体育祭ではスタンドやマスコットをやるような子が多いです。ただし一生懸命にやりますので、吸収するのも早く、物覚えもいいので、いい写真をどんどん撮って毎年入選もするようになってきています。運動部も結構盛んですが、うちは割と文化部が頑張れる学校ではないかと思っています。最近どこの府立高校でもクラブそのものが成立しにくくなって、昔は例えば勉強は少々苦手でも運動は頑張る学校とかあったんですけど、最近は勉強しないところは、運動もしない、クラブもしない、何もしないと。クラブやってるところほど進学成績もよいので、そんなふうにと考えると、うちはクラブが盛んというのは、一つこれから十分期待できる学校だと思ってます。

小松 去年からESS、英語のクラブを持たせていただいています。本当に英語の好きな生徒が徐々に集まり、去年は1年生で、英検2級に合格した生徒もいました。英検2級とは、文法力は少し簡単ですがセンター試験と同じぐらいの語彙力が必要です。そういうレベルを自分で勉強して、「受かるぞ!」という気持ちを持っている生徒がいるのは、すごいことだと実感しました。自分一人で勉強するよりもESSで少人数で指導してもらって自分の英語力を伸ばしたいと思う生徒が集まっています。なので指導すると、テストでも宿題でもこちらがびっくりするような反応を示してくれます。そういう意味では、クラブだけに限らず正規の授業でも、こちらがやればやるほど伸びる生徒がたくさんいると思うんです。芸文科にも普通科にも授業に行ってますが、少しキャラクターが違って、こちらが一生懸命にすれば必ず返してくれる

ので、いいところを伸ばせるようにと思います。

山上 芸能文化科は生徒間の能力に個人差があります。しかし、体育祭のほかにもいろいろな行事やイベントをこなして、しんどさを越えて、また自分の位置に帰るという点が3年生になってできるようになるんです。今春卒業した3年生なんかはこの辺の切り換えができた。それを繰り返しながら伸ばしていきたいと思っています。芸能文化科の教育目的や教育内容を今年ではあらゆる機会を通して宣伝していきたい。校内にいてだけでなく、こちらからどんどん出向いて行って、PR活動をして、いい生徒にどんどん来てもらえるように、いろいろ挑戦してみたいと思っています。

司会 山内さん、どうですか？

山内 さっき校長先生がおっしゃったように、「子供たちが東住吉高校に入ってよかった。出てよかったと思えるように」というのは、全く親も本当にそうなんです。もちろん、この年齢でなければ経験できない体育祭や文化祭などほとんど経験して、勉強以外でもいろいろな面で大きくなってほしいという親の気持ちと、やっぱり進路のことも親として当然気に掛かります。これだけの数の子供で、まして進路もいろいろで、とても大変だとは思いますが、親にしてみたら、やはり一人一人の子供なんです。本当に一人一人に目を注いでやっていただいて、子供たちのやらかなきゃいけないと思っている気持ちを、相談に乗ってやって指導していただけたら、親としては少し安心と思うんです。学校にそんなのを見てももらえないという不安があるため、どうしても塾や予備校へということがあるんですけども、できたらそままでなくても、学校の勉強をこれだけきちんとしたら進路も展望が開けるよ、みたいな何かそんな

のを残してやってもらえたらなというのが、今3年生を持っている親の正直な願いです。よろしくお願いします。

清水 私は中学校の教諭で、3年ほど進路を担当しています。ここ数年の公立高校、私立高校の変化というのはすごく大きなものがありまして、特に公立高校が特色をかなり打ち出してきています。その中で、子供たちには「どこに行ける？ じゃなしに、どんなことがしたいかという相談を持って来なさい。」と。それによってこの学校ではこういう勉強ができる、ここはこういう魅力的な授業を持っていると、子供たちに具体的な話をしてるんです。東住吉高校は他にない芸文科だけでなく、普通科でもこういう魅力的な授業が展開されている。そういうあたりをもっともっと打ち出して、子供たちが希望を持ってどんどん東住吉高校に入ってくるような基礎作りを、今以上に力を入れていかれたらなと思います。

前田 クラブのことに戻らせていただきますが、本校は創立以来野球部がないんです。自分自身は草野球的にずっとやっけて、何とかサークルにしたいと、実際に高校2年生ぐらまで、学校の中ではできませんので、長居公園や、今の瓜破のジャスコが当時は大きい広場の時代で、そこへ行ったりしてやっけてました。

今後50年先には、どうなってるかわかりませんが、野球部がないのは一つ東住吉高校の伝統でもあるんですけども、実は反面少しさみしいなという気持ちがあります。野球部ができたなら他のクラブに迷惑になるかもわかりませんが、一度創部を考えてもらいたいという気も少しあります。

教諭として13年間、その12年間は山岳部の顧問をさせていただきました。専門にやっておられた顧問の先生についていくという形で、八ヶ岳など

でいろんな体験をし、素晴らしい自然にも接することができました。山岳部は少人数のクラブですが、本当にいい勉強になりました。山岳部の継続と発展もあわせて願っています。

司会 最後に…。

校長 いろいろ同って、本当にわれわれもしっかりしないといけないという思いを強くしたんです。文科省からの教育改革の要求に先生たちは対応するだけでも大変な時代になっています。ただ、基本的には上から言われて変えるのではなく、先生たちみんないろいろなことを考えておられるわけですから、この学校のために、生徒のために、自分は何ができるのか、それこそ何人かの方がおっしゃるように、やはりそこから始めないと、学校というのはなかなかよくなると思うんです。かけ声だけじゃなくて、先生一人一人が、具体的な一人一人の生徒を前にして、この子らのために何をしてあげられるのかということを考えていけば、その集積というのはすごい教育改革になると思うんです。かけ声とかキャッチフレーズの中身の無いものではなく、本当に卒業生と保護者の方たちのご期待に添えるような学校に少しでも近づければと思っています。

少し長くなりますが、私がちょっと感動しているのは、この学校は、朝、太陽に向かって登校してきますね、帰りはまた夕日に向かってというか帰っていきます。今の社会や家庭でいろいろ悩んだりする生徒もいると思うんですけども、その中で陽だまりの学校というか、いつもどこかに温かいものがあるような学校にできたらなと。学校というのはもちろん知識を身に付けて、進学することは大事なことですけど、それと同時に、悩んだり苦しんだりしている時に、学校へ行ったらそこで少しほっとして、元気が出るというか、力

ができるようなそういう場所であればいいと思います。ちょっと文学的過ぎるかも分からないんですけど、できたらそういう学校にして、それでこれからまた50年継続できたら、なんとか先輩たちに喜んでいただけるんじゃないかなと考えています。

司会 予定の時間もかなり過ぎてしまいました。本日は誠にありがとうございました。



峰の青雲 (生徒紹介)



1年1組



1年2組



1年3組



1年4組



1年5組



1年6組



1年7組



1年8組



2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



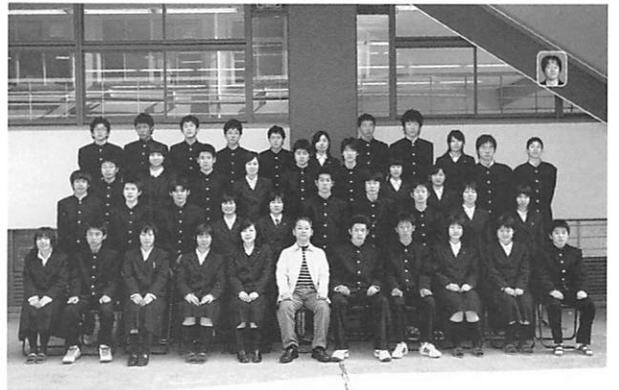
2年5組



2年6組



2年7組



2年8組



3年1組



3年2組



3年3組



3年4組



3年5組



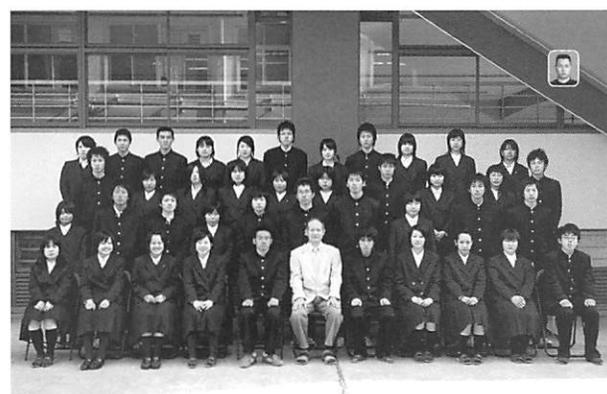
3年6組



3年7組

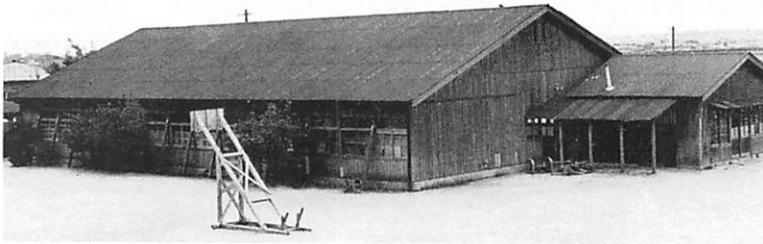


3年8組

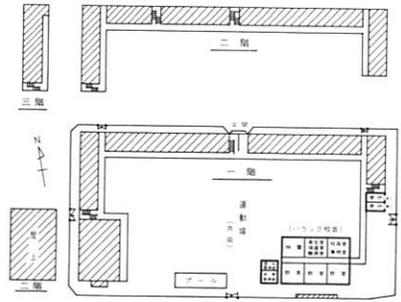


3年9組

校舎変遷



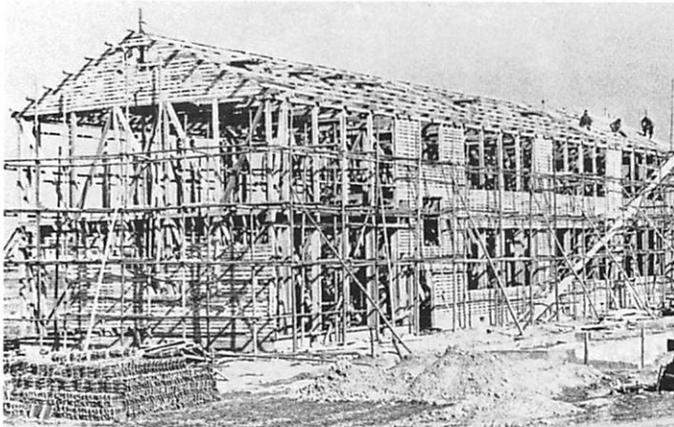
摂陽中学内仮校舎 1955年（昭和30年）



十三、大飯町立責任若菜高等学校
校舎平面図 一畝
□ 内中庭
□ 外中庭



青空の下の入学式



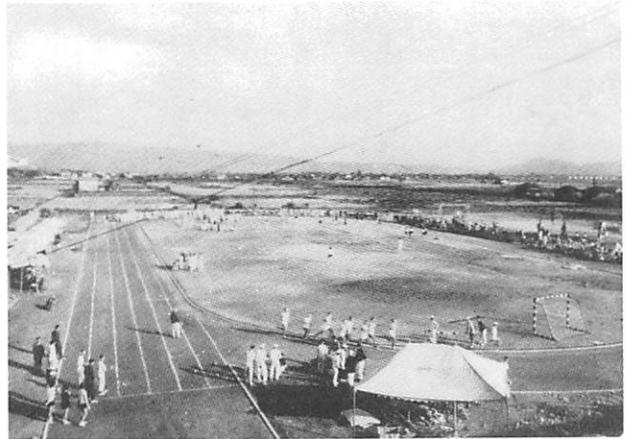
建設中木造校舎



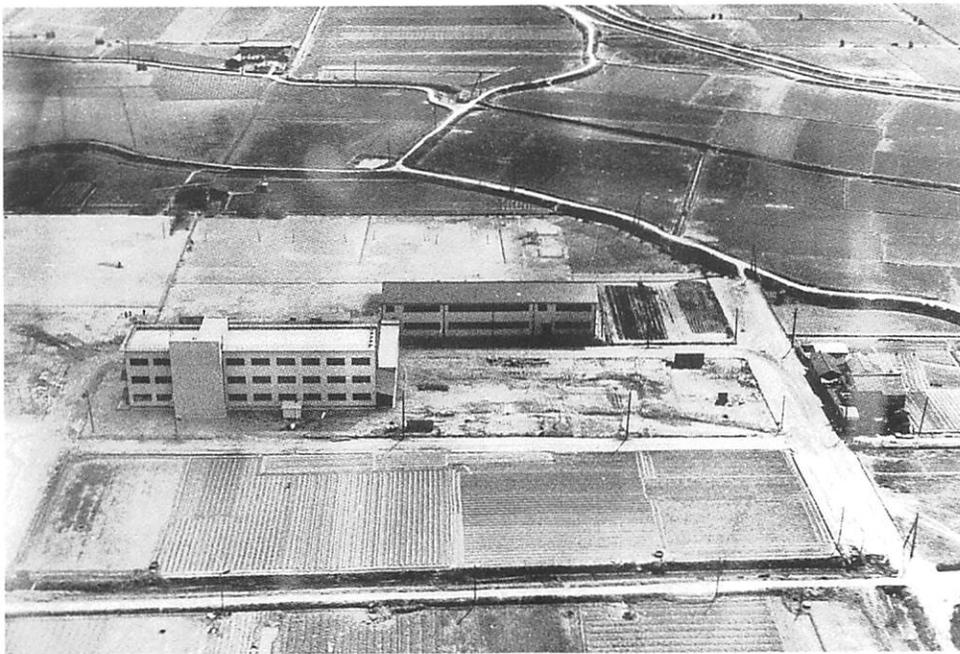
落成なった木造校舎



運動場整地



金剛山・葛城山・二上山がよく見えた



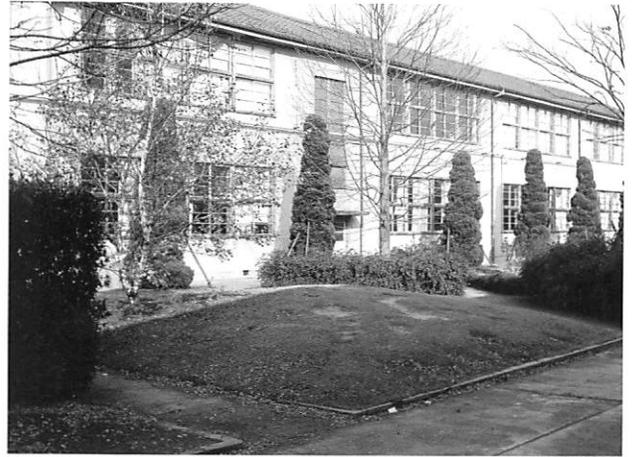
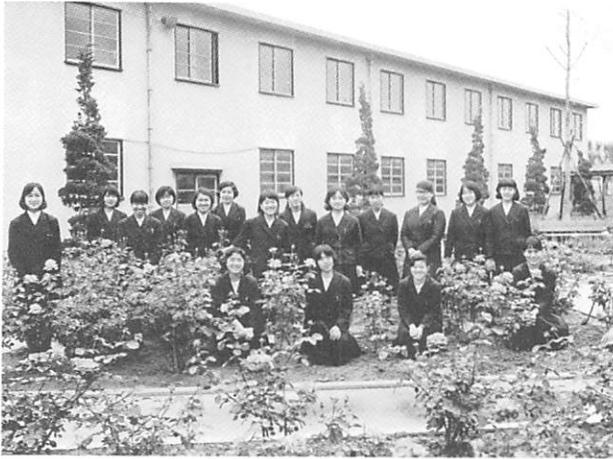
1957年（昭和32年）頃



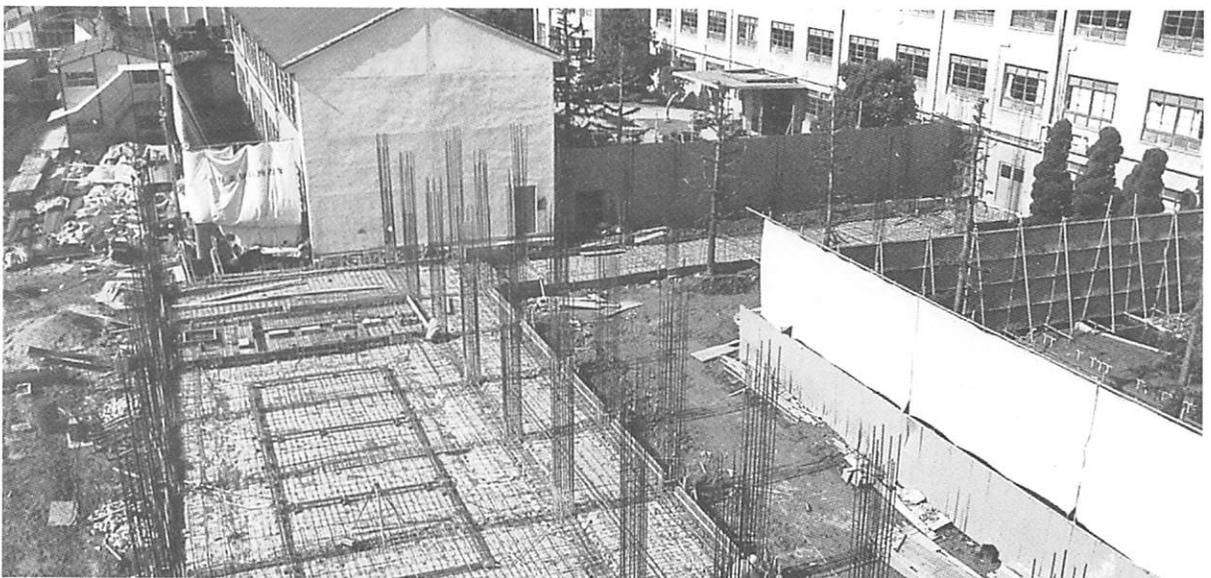
1960年（昭和35年）頃



1966年（昭和41年）頃



1976年（昭和51年）頃



中央棟工事開始 1978年（昭和53年）

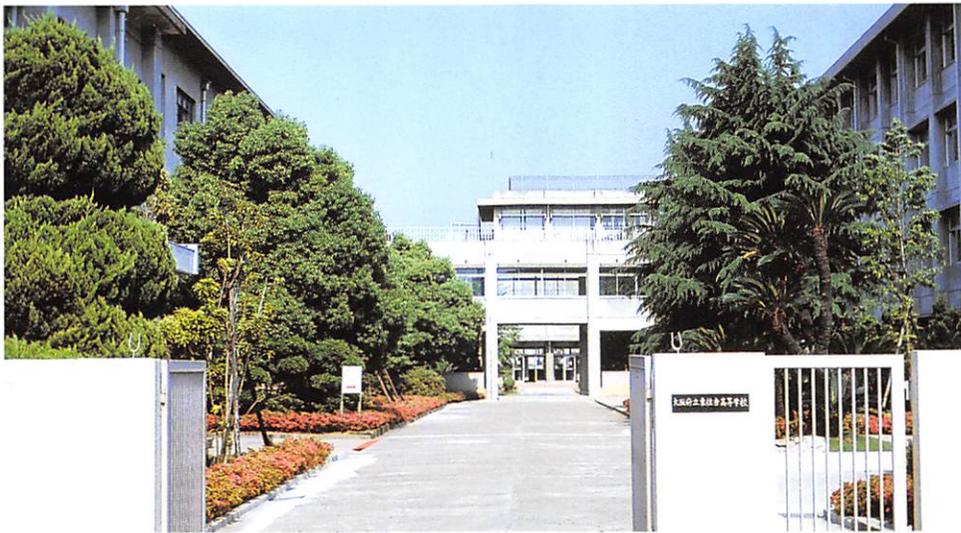


最後の木造校舎

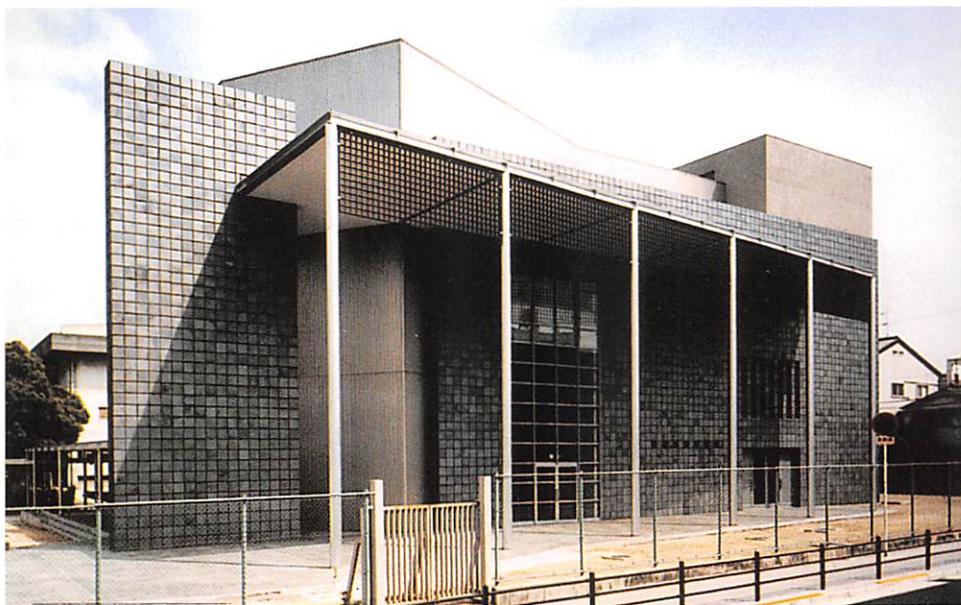
1979年（昭和54年）頃



新校舎

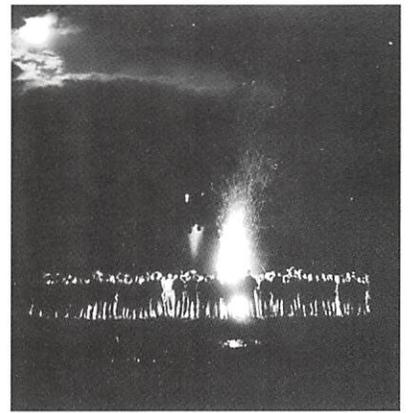


正門より 1983年（昭和58年）頃



芸能文化科実習棟 1994年（平成6年）

体育祭・文化祭・修学旅行の変遷

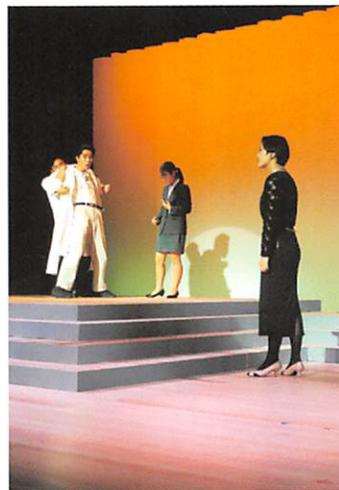




平成6年度



平成7年度



平成8年度



平成9年度



平成10年度



平成11年度



平成12年度



平成13年度



平成14年度



平成15年度



クラブ活動の記録

昭和31年度	陸上部	全国大会出場 2 名
昭和32年度	陸上部	全国大会出場 4 名・棒高跳び 2 位入賞、東西対抗出場 1 名
昭和33年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞
	美術部	全日本油絵コンクール入選 6 名
	陸上部	全国大会出場 1 名
昭和34年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞
	美術部	全日本油絵コンクール入選 6 名
	陸上部	全国大会出場 6 名、国体出場 2 名・110m J・H 優勝
昭和35年度	陸上部	全国大会出場 6 名、国体出場 2 名・110m J・H 優勝、100m 優勝・200m H 優勝・100m 3 位・槍投げ 5 位、東西対抗出場 3 名・110m J・H 優勝、国体出場 4 名・110m J・H 優勝
昭和36年度	美術部	全日本学生油絵コンクール最優秀校奨励賞・特賞 1 名・入賞 4 名・入選 16 名
	陸上部	全国大会出場 4 名、東西対抗出場 1 名・棒高跳び 5 位入賞、国体出場 2 名
	ハンドボール部	大阪府民体育祭優勝、近畿総合大会 3 位
昭和37年度	美術部	全日本油絵コンクール入選 11 名、全国学生競書大会団体全国準優勝・個人特別賞 5 名、全国学生書芸展団体優良校・個人特別賞 6 名
	陸上部	全国大会出場 2 名、国体出場 1 名
	水泳部	全国大会出場 1 名、国体出場 1 名
	女子バスケットボール部	大阪高校大会 3 位、近畿大会出場
昭和38年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞
	美術部	全日本学生油絵コンクール・入賞 2 名・入選 13 名
	書道部	全日本学生書初展・学校賞・個人特別賞 3 名、全国学生競書大会・団体全国準優勝・個人特別賞 5 名
	陸上部	全国大会出場 1 名、国体出場 1 名
	ハンドボール部	近畿大会出場、全国大会出場
	水泳部	全国大会出場 1 名
昭和39年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞
	書道部	全国競書大会・団体準優勝・個人特別賞 7 名
	陸上部	近畿大会総合 3 位、全国大会出場 8 名
	剣道部	大阪府高等学校剣道優勝大会 3 位、近畿大会出場 7 名
昭和40年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞
	美術部	全日本学生油絵コンクール入選 5 名
	書道部	第16回府下高校書道展・団体賞・特別賞 2 名
	陸上部	全国大会出場
昭和41年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞
	美術部	全日本学生油絵コンクール入選 6 名
	書道部	第17回大阪府高校書道展・団体賞、第17回全国学生競書大会・準優勝・読売新聞社賞 1 名、第10回学生書初展・学生賞・会長賞 1 名
昭和42年度	美術部	全日本学生油絵コンクール入選 5 名
	書道部	第18回大阪府高校書道展・知事賞 1 名・毎日新聞社賞 1 名・研究会賞 5 名、第18回全国学生競書大会・準優勝
昭和43年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞

	美術部	全日本学生油絵コンクール・入賞2名・入選6名
	書道部	第19回大阪府高校書道展・市長賞1名・読売賞1名・研究会賞1名、第19回全国学生競書大会・団体優秀賞・会長賞1名・努力賞2名・奨励賞2名
	陸上部	全国大会出場1名
	重量挙げ部	全国大会出場
	体操部	大阪高校選手権大会(1部)男子個人7位入賞、近畿大会出場
	山岳部	近畿大会出場
	サッカー部	近畿大会出場
昭和44年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞
	美術部	全日本油絵コンクール・入賞2名・入選5名
	書道部	第20回大阪府高校書道展・団体賞・知事賞1名・読売賞1名・研究会賞2名・第20回全国学生競書大会・団体優勝
	陸上部	全国大会出場1名
	山岳部	近畿大会出場
	体操部	大阪高校選手権大会(2部)男子個人優勝・種目別 あん馬1位・つり輪1位・鉄棒1位
昭和45年度	生物研究部	研究発表・大阪府教育委員会賞受賞
	美術部	全日本油絵コンクール入選5名
	書道部	第21回大阪府高校書道展・団体賞・特別賞・研究会賞8名・大阪府教育委員会賞1名・毎日新聞社賞1名、第21回全国学生競書大会・東京都教育委員会賞1名・努力賞2名・奨励賞1名
	陸上部	全国大会出場1名
	水泳部	全国大会出場1名
	山岳部	近畿大会出場
昭和46年度	美術部	全日本油絵コンクール・佳作賞他人選多数、第3回西日本高校生作品展・入賞3名・入選多数
	書道部	大阪府書道展に出品、大阪府高校席書会出席
昭和47年度	美術部	全日本油絵コンクール・優秀賞・1位入選
	書道部	大阪府書道展に出品、大阪府高校席書会出席
	陸上部	全国大会出場1名
	山岳部	インターハイ出場4名
	水泳部	全国大会出場1名
	ハンドボール部	大阪府優秀選手
昭和48年度	美術部	「緑と花を描く会」・知事賞・サンケイ新聞社賞、全日本油絵コンクール・入選多数
	書道部	大阪府高校書道展出品、大阪府高校席書会出席
	陸上部	全国大会出場1名
	重量挙げ部	インターハイ出場1名、近畿大会出場5名
昭和50年度	美術部	全日本油絵コンクール・入選多数、西日本女子高校作品展・入賞6名
	書道部	大阪府高校書道展出品、大阪府高校席書会出席
	陸上部	近畿ジュニア大会7名出場
	重量挙げ部	インターハイ出場4名、近畿大会出場4名

昭和51年度	体操部	春期総合体育大会 2部・男子個人総合優勝・同2位、1・2年生大会(2部)・女子個人総合3位・種目別段違平行棒優勝
	美術部	全日本学生油絵コンクール・入賞1名・入選13名
	数学研究部	大阪府統計グラフコンクール第1部入賞
	ブラスバンド部	関西吹奏楽コンクール府大会・銀賞、関西アンサンブルコンテスト府大会・クラリネット4重奏金賞・フルート2重奏銅賞
昭和52年度	体操部	春期総合体育大会(2部)・女子個人総合5位、大阪選手権大会・女子個人総合5位、大阪府民大会・女子個人総合6位、大阪総合体育大会(2部)・女子団体総合5位
	数学研究部	大阪府統計グラフコンクール(第4部)全作品入賞
	美術部	全日本学生油絵コンクール出品7名
	書道部	全国硬筆習字展覧会・全国準優勝
	ブラスバンド部	関西吹奏楽コンクール府大会・銅賞、関西アンサンブルコンテスト府大会・クラリネット4重奏銀賞・金管アンサンブル銅賞
昭和53年度	体操部	1・2年大会・男子個人総合4位・男子種目別・鞍馬優勝・同男子平行棒2位
	数学研究部	大阪府統計グラフコンクール第4部入賞
	美術部	全日本学生油絵コンクール出品5名・入選5名・賞候補1名、全大阪高校美術工芸展・出品13名・推奨1名、
	写真部	大阪府農業協同組合会主催写真コンクール・銀賞
	書道部	全国硬筆習字展覧会・会長賞・文部大臣賞
	ブラスバンド部	関西吹奏楽コンクール府大会銀賞
昭和54年度	放送部	第26回NHK杯全国高校放送コンテスト・ラジオ番組制作部門大阪府予選第1位(大阪府大表)
	陸上部	大阪大会・棒高跳び優勝・入賞2名、近畿大会出場3名
	体操部	春期体育大会(2部)男子個人総合3位
昭和55年度	放送部	NHK杯全国高校放送コンテスト、ラジオ番組制作部門4位入賞
昭和56年度	陸上部	国体出場・走り幅跳び
昭和57年度	陸上部	近畿総体・近畿インターハイ棒高跳び優勝、全国インターハイ・国体棒高跳び5位、近畿インターハイ円盤投げ出場
昭和58年度	水泳部	近畿大会、インターハイ背泳ぎに1名出場
昭和59年度	水泳部	インターハイ1名出場・100m背泳ぎ9位、200m背泳ぎ8位
	陸上部	近畿インターハイ・棒高跳び・円盤投げ出場
	体操部	1・2年生大会(2部)女子種目別・平均台1位
昭和60年度	陸上部	近畿総体・100m・100mH・砲丸投げ出場
	体操部	1・2年生大会(2部)男子種目別・ゆか1位
昭和63年度	陸上部	近畿インターハイ・100mH出場
平成元年度	山岳部	第35回近畿登山大会(六甲山系)出場
	陸上部	近畿総体・槍投げ・100mH出場、近畿総体インターハイ・100mH出場
	体操部	2・3部大会(2部)女子種目別・ゆか1位、新人大会(2部)男子種目別・つり輪1位・鉄棒1位
平成2年度	体操部	大阪高校春期体育大会(2部)男子個人優勝、新人大会(2部)女子個人・跳馬1位

平成3年度	山岳部	第37回近畿登山大会(岩脇山系) 出場
平成4年度	放送部	大阪府アナウンス大会新人戦入賞
	陸上部	近畿総体・近畿インターハイ 走り高跳び出場
平成5年度	放送部	NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会・アナウンス部門決勝出場
	男子バレー部	府立高校普通課程バレーボール大会ベスト16
	体操部	大阪高校総合体育大会(2部) 女子個人2位
平成6年度	放送部	NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会・アナウンス部門5位入賞・全国大会出場
	陸上部	近畿総体・100m 6位、近畿インターハイ・100m 出場
平成7年度	陸上部	近畿インターハイ 男子100m 準決勝進出、近畿総体 女子100mH 決勝進出
	体操部	大阪高校春期体育大会(2部) 女子団体3位、大阪高校選手権大会(1部) 女子個人総合8位入賞、近畿大会出場
平成8年度	陸上部	近畿総体 男子100m 決勝進出
	山岳部	第42回近畿登山大会(高野山系) 出場
	体操部	2・3部大会(2部) 女子種目別・ゆか1位、大阪高校総合体育大会(2部) 女子団体3位
平成9年度	陸上部	近畿総体 男子走り高跳び 決勝5位入賞、近畿インターハイ 女子100mH 準決勝進出
	体操部	大阪高校春期体育大会(2部) 女子個人総合優勝、2・3部大会女子種目別・跳馬1位、大阪高校総合体育大会・女子個人総合3位、新人大会・女子個人総合3位
平成10年度	陸上部	近畿インターハイ 男子4×100mR 準決勝進出
	体操部	大阪高校春期体育大会(2部) 女子個人総合優勝・女子種目別・跳馬1位、新人大会(2部) 女子種目別・跳馬1位
	山岳部	第44回近畿登山大会(金剛山系) 出場
平成11年度	山岳部	第45回近畿登山大会(滋賀マキノ高原山系) 出場
	柔道部	第15回全国高等学校女子柔道体重別選手権大阪府予選2位、近畿大会出場、近畿錬成大会に選出される
	体操部	大阪高校総合体育大会(2部) 女子種目別・跳馬1位
平成12年度	山岳部	第46回近畿登山大会(伊吹山系) 出場
	柔道部	第16回全国高等学校女子柔道体重別選手権大阪府予選3位、近畿大会出場、近畿錬成大会に選出される
平成13年度	陸上部	大阪高校総体 男子やり投げ 2位、近畿総体出場
	男子ソフトテニス部	近畿高校インドア大会(個人戦) 出場
平成14年度	写真部	第22回近畿高等学校総合文化祭 写真部門入賞
	水泳部	近畿大会 女子100m・200m平泳ぎ 出場
平成15年度	理科研究部	第47回日本学生科学賞入選一等受賞
	写真部	第23回近畿高等学校総合文化祭 写真部門入賞、第28回全国高等学校総合文化祭写真部門へ推薦される。
	バレーボール部	第35回全国高校バレー選抜優勝大会大阪地方大会ベスト8 進出

年次別卒業生数

回	年 度	卒業生数			累 計	クラ数
		男 子	女 子	合 計		
1	昭和33年	67	69	136	136	3
2	昭和34年	66	73	139	275	3
3	昭和35年	160	131	291	566	6
4	昭和36年	182	186	368	934	8
5	昭和37年	216	181	397	1331	8
6	昭和38年	205	168	373	1704	8
7	昭和39年	205	163	368	2072	8
8	昭和40年	265	177	442	2514	9
9	昭和41年	323	222	545	3059	11
10	昭和42年	326	227	553	3612	11
11	昭和43年	343	200	543	4155	11
12	昭和44年	308	181	489	4644	10
13	昭和45年	314	181	495	5139	10
14	昭和46年	306	159	465	5604	10
15	昭和47年	287	175	462	6066	10
16	昭和48年	268	196	464	6530	10
17	昭和49年	273	173	446	6976	10
18	昭和50年	298	191	489	7465	11
19	昭和51年	297	193	490	7955	11
20	昭和52年	277	217	494	8449	11
21	昭和53年	242	198	440	8889	10
22	昭和54年	240	208	448	9337	10
23	昭和55年	267	228	495	9832	11
24	昭和56年	297	265	562	10394	12
25	昭和57年	283	276	559	10953	12
26	昭和58年	290	276	566	11519	12
27	昭和59年	286	267	553	12072	12
28	昭和60年	308	255	563	12635	12
29	昭和61年	271	288	559	13194	12
30	昭和62年	279	283	562	13756	12
31	昭和63年	284	273	557	14313	12
32	平成元年	291	283	574	14887	12
33	平成2年	300	268	568	15455	12
34	平成3年	293	285	578	16033	12
35	平成4年	264	306	570	16603	12
36	平成5年	268	282	550	17153	12
37	平成6年	223	309	532	17685	12
38	平成7年	217	249	466	18151	11
39	平成8年	195	243	438	18589	11
40	平成9年	201	232	433	19022	11
41	平成10年	161	233	394	19416	10
42	平成11年	171	214	385	19801	10
43	平成12年	159	226	385	20186	10
44	平成13年	153	239	392	20578	10
45	平成14年	175	218	393	20971	10
46	平成15年	151	201	352	21323	9
47	平成16年	150	204	354	21677	9
48	平成17年	150	207	357	22034	9

平成17年は予測数

教育課程変遷

教育課程の変遷

●昭和30年度～昭和37年度

入学期	30年度(1期生)			31年度(2期生)			32年度(3期生)～ 37年度(8期生)					
	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
学年	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
コース	家庭	普通	家庭	家庭	普通	家庭	家庭	普通	家庭			
教科科目	家庭	普通	家庭	家庭	普通	家庭	家庭	普通	家庭			
国語	国語甲	3	3	3	7	3	3	3	3	3	3	3
	国語乙	(2)	2	2	2	3	(2)	2	2	2	2	3
	漢文	2			3	2						
	一般社会	4				5						
社会	社会								2			
	日本史			3					3		3	3
	人文地理			3	3		2	2		5	5	5
	世界史	5	5	2	3		3	3			5	5
	解析Ⅰ	4			2							
数学	解析Ⅱ	4	6	4								
	幾何	1			5							
	数学Ⅰ				6	3	3		6	3	3	
	数学Ⅱ						3	3			3	5
	数学Ⅲ							5			5	
	生物	2	3	3		2	3	3		2	3	3
理科	化学	3	2	3	2	3	2	2		3	2	2
	物理			3	2				3	4		5
	地学				5					3		
	保健体育	1	1			1	1	1	1		1	1
外国語	英語	5	5	6	3	3	6	4	5	3	5	5
	独語	(2)	(2)		5	2						
	書道											
芸術	音楽	2	2	2	(2)	2	2	2	2	2	2	2
	図画											
	美術											
家庭	一般家庭	4	4			4	4			2		
	被服食物							7		4		4
小計	35	34	32	34	32				32			
特別教育活動	1	1	2	1	2				2			
総計	36	35	34	35	34				34			

●昭和38年度～昭和48年度

入学期	38年度(9期)～47年度(18期)			入学期	48年度(19期)～		
	1	2	3		1	2	3
学年	1	2	3	1	2	3	
コース	家庭	普通	家庭	家庭	普通	家庭	家庭
教科科目	家庭	普通	家庭	家庭	普通	家庭	家庭
国語	現代国語	3	3	3	3	2	3
	古典Ⅰ	2	3				2
	古典Ⅱ			3	3	3	3
社会	倫理・社会		2				2
	政治・経済			2	2	2	2
	日本史			3	3	3	4
	世界史B		2	2	2	2	3
	地理B	4					2△
数学	数学Ⅰ	6					6
	数学Ⅱ		6				5
	数学Ⅲ			5	5	6	4
理科	物理B		3	2	2	3	3
	化学B		2	3	2	3	2
	生物	4					3
	地学	2					2
保健体育	体育	男3 女2	3	3	3	3	3
	保健	男1	1				3△
	音楽Ⅰ						3
芸術	美術Ⅰ	2	男2				2×
	書道Ⅰ						3△
	音楽Ⅱ						3
	美術Ⅱ			2	2		1
外国語	英語B	6	6	5	6	6	3
	家庭一般	女2	女2				1
	小計	33					
特別教育活動	1						
総計	34						
その他の特別教育活動	3						
家庭	保健体育						3
	音楽Ⅰ						2
	美術Ⅰ	2	2				2
芸術	書道Ⅰ						2×
	音楽Ⅱ						
	美術Ⅱ						2×
外国語	英語B	6	5	6	5	6	5
	家庭一般	女2	女2				2
	小計	32					
特別教育活動	2						
総計	34						

② ×△の印は、選択科目であり、同じ印のうちのどちらかを選ぶべきものであることを示す。

●平成6年度 新教育課程——〈普通科〉

入学年度	平成6年度												備考	
	類型	文化系						理科系						
		①	Ⅱ	Ⅲ	計	①	Ⅱ	Ⅲ	計	①	Ⅱ	Ⅲ		計
学年	10													
学級数	10													
教科科目	共	選	共	選	計	共	選	共	選	計	共	選	計	
国語	国語Ⅰ	5			11	5			10				10	
	国語Ⅱ	4			13		4		12				12	
	現代文			3	15			2	14				14	
	古典Ⅰ		2	○	17			2	○				17	
	古典Ⅱ			4	○	19			2	○			20	
	国語表現	2			2				2				2	
地理歴史	世界史A						2							●から1科目選択、○は●と同一科目選択。
	世界史B			3	●	2			4	○			6	
	日本史A	2			9	2			10				10	
	日本史B			3	●	2			4	○			6	
	地理A	2			2				2				2	
	地理B			3	●	2			4	○			6	
公民	現代社会				4				4				4	
	政治・経済	2			2				2				2	
数学	数学Ⅰ	4			4				4				4	●から1科目選択。
	数学Ⅱ	4	2	○	2	●			12	4			15	
	数学Ⅲ				14			3	●				17	
	数学A	2			16	2			19				19	
	数学B		2	○	2			2	○			2	2	
	数学C			2	●				2				2	
	数学演習B							3	●				3	
理科	物理ⅠB	2	●	2	●			2	○	2			4	●から1科目選択、○は●と同一科目選択。
	物理Ⅱ				2			3	●				3	
	化学ⅠB	2	2	2	●			2	○	2			6	理科系の物理希望者は2年次に○2物理選択。
	化学Ⅱ				11	2	2	2	○	2			16	3年次の科目は1・2年次で履修した科目を選択。
	生物ⅠA	2		2	○				2				2	
	生物ⅠB			2	○				2				2	
	生物Ⅱ			2	●	2			3	●	2		5	
	地学ⅠB	2	●	2	●				2	●			2	
	地学Ⅱ													
保健	体育	3	3	3				3	3	3			9	
	保健	1	1					1	1				2	
	ライフスポーツ				2				2				2	
芸術	前(実)前(理)	2						2					2	芸術科目名
	前(理)前(実)前(理)								2				2	スルフェージュ
	前(理)前(実)前(理)												2	生活デザイン
	芸術				2				2				2	実用書
外国語	英語Ⅰ	4			4				4				4	
	英語Ⅱ	3		3				3		3			6	
	オーラルコミュニケーション見	1	1		16	1	1		16				16	
	リーディング			2	18				2				2	
	ライティング		2	○	20				2	○			22	
	英語演習A												2	
	英語演習B												2	
家庭	家庭一般	2	2		4	2	2		4				4	
計	教科・科目の計	32	28	4	20	12	96	32	28	4	22	10	96	
特別活動	特別活動	2	2	0	2	0	6	2	2	0	2	0	6	
総計	総計	34	30	4	22	12	102	34	30	4	24	10	102	
選択の方法	2年次：○から4単位選択 3年次：○から12単位選択	2年次：○から4単位選択 3年次：○から10単位選択												

●平成6年度 新教育課程——〈芸能文化科〉

入学年度	平成6年度												備考	
	類型	文化系						理科系						
		①	Ⅱ	Ⅲ	計	①	Ⅱ	Ⅲ	計	①	Ⅱ	Ⅲ		計
学年	1													
学級数	1													
教科科目	共	選	共	選	計	共	選	共	選	計	共	選	計	
国語	国語Ⅰ	4												
	国語Ⅱ			5										
	現代文							3		16				
	古典Ⅰ							4						
	古典Ⅱ													
	国語表現													
地理歴史	世界史A						2							
	世界史B													
	日本史A	2								6			6	
	日本史B									2			2	
	地理A													
	地理B													
公民	現代社会													
	倫理									2			2	
	政治・経済									2			2	
数学	数学Ⅰ	3								2			5	
	数学A													
理科	物理ⅠA													
	化学ⅠA													
	生物ⅠA	2												
	地学ⅠA									2			2	
保健	体育	3	2							2			5	
	保健	1	1										2	
芸術	前(実)前(理)	2								2			2	芸術科目名
	芸術									2	*		4	スルフェージュ
外国語	英語Ⅰ	4												
	英語Ⅱ							3		3			6	
	オーラルコミュニケーション見	1	1											
	リーディング													
	英語演習A									2			2	
	英語演習B									2	*		2	
家庭	家庭一般	2	2											
計	教科・科目の小計	24	22					20		66			66	
芸術文化	芸能文化論	2												芸能鑑賞・創作実習・舞台技術・芸能各論は1類・Ⅱ類に分けて履修する
	芸能鑑賞	2	2											3年次は△から2単位選択
	創作実習	2	4					3						
	テレビ文化論	2												
	舞台技術							2		2				
	芸能各論							2		2				
	比較芸能論									1				
	現代文化論									2	△			
	大阪文学演習									2	△			
	郷土研究									2				
計	芸能文化小計	8	10					12		30			30	
特別活動	特別活動	2	2					2		2			6	
総計	総計	34	34					34		102			102	

●平成16年度 教育課程——<普通科>

入学年度 類 型 学 年 学 級 数 科 目	平成16年度												備 考		
	文科系						理科系								
	I		II		III		I		II		III				
	共	選	共	選	共	選	計	共	選	共	選	計			
国語	国語表現Ⅰ					*2						*2	11 ~ 13	3年文系*は1科目まで	
	国語表現Ⅱ														
	国語総合	4					16	4							
	現代文			2		3				2		3			
	古典			2		3									
	古典講読 ・古典演習	1		1				1		1					
地理 歴史	世界史A			2						2			4 ~ 8	◎から1科目選択 3年文系*は◎と同じ科目 3年理系*は1科目まで	
	世界史B					◎4									
	日本史A	2					8	2							
	日本史B					◎4									
	地理A				▼2		12			△2					
	地理B					◎4									
	・世界史演習											*2			
	・日本史演習 ・地理演習											*2 *2			
公民	現代社会	2					4	2					2 ~ 6		
	倫理				▼2					△2					
	政治・経済					2	6					*2			
数学	数学Ⅰ	3						3					16 ~ 18	□から1科目選択 ■から1科目選択	
	数学Ⅱ			2	△2					4					
	数学Ⅲ											□3			
	数学A	2					7	2							
	数学B				△2					2					
	数学C											■2			
	・数学基本演習											■2			
	・数学応用演習 ・数学演習											□3 *2			
理科	理科総合A	2						2					14 ~ 20	△から2科目かつ 4単位以上 6単位まで ▲から1科目以上選択 2科目まで ●から2科目選択 文系*は2科目まで	
	理科総合B	2						2							
	物理Ⅰ				▲2					△2,4		●3			
	物理Ⅱ											●3			
	化学Ⅰ				▲2					△2,4		●3			
	化学Ⅱ											●3			
	生物Ⅰ				▲2					△2,4		●3			
	生物Ⅱ											●3			
	地学Ⅰ				▲2										
	・物理演習 ・化学演習 ・生物演習											*2 *2 *2			
保健 体育	体育	3		3		2	10	3		3		2	10		
	保健	1		1				1		1					
	・ライフスポーツ											*2			
芸術	音Ⅰ・美Ⅰ・書Ⅰ	2						2					3	ⅢはⅡを履修していること	
	音Ⅱ・美Ⅱ・書Ⅱ			1						1					
	音Ⅲ・美Ⅲ・書Ⅲ											*2			
	・生活デザイン											#2			
	・実用書											#2			
外国語	オラルコミュニケーション	2						2					17		
	英語Ⅰ	3						3							
	英語Ⅱ			4						4					
	リーディング					4					4				
	ライティング			2		2				2		2			
	・英語演習											*2			
家庭	家庭基礎	2		1			3~	2		1			3		
	・生活文化						5					*2			
情報 音楽	情報A			2			2			2			2 0		
	ソルフェージュ						0-2					#2			
教科・科目の計		31		23	8	16	10	88	31		25	6	11	15	88
総合的な学習の時間						3	3						3	3	探求
特別活動		1		1		1	3		1		1		1	3	
総 計		32		32		30	94		32		32		30	94	
選択の方法		▼から1科目以上選択 *#から6単位 △▲▼から4科目選択 #からは2単位まで						△から6単位 *から4単位							

●平成16年度 教育課程——< 芸能文化科 >

	入学年度	平成16年度							備考
	類型								
	学年	I	II		III				
	学級数	1							
	教科・科目	共	選	共	選	共	選	計	
国語	国語総合	4						12	
	現代文			2		2			
	古典			2		2			
地歴	世界史A			2				8	#から 1科目 選択
	日本史A	2							
	世界史B						4 #		
	日本史B						4 #		
公民	現代社会			2				2	
数学	数学I	3						3	
理科	理科総合A	2						4	
	理科総合B			2					
保体	体育	3		2		2		9	
	保健	1		1					
芸術	音I・美I・書I	2						2,4	
	・生活デザイン						2 *		
	・実用書								
外国語	オールコミュニケーションI	2						12 ~ 16	
	英語I	3							
	英語II			3					
	リーディング					2			
	ライティング					2			
・英語演習				2 *		2 *			
家庭	家庭基礎	2		1				3	
情報音楽	情報A			2				2	
	ソルフェージュ							2 *	
教科・科目の小計		24		19	0,2	10	4,6	57~61	
・ 芸 能 文 化	・ 芸能文化総論	2		2			2 *	27 ~ 31	
	・ 創作実習	2		3		3			
	・ 劇表現			2					
	・ 舞台芸術論	2							
	・ 芸能各論					4			
	・ 芸能特論	1		1	2 *	1			
	・ 舞台技術			2		2			
芸能文化科小計		7	0	10	0,2	10	0,2	27~29	
教科・科目の計		31	0	29	2	20	6	86	
特別活動		1		1		1		3	
総合的な学習の時間						3		3	探求
総計		32		32		30		94	
選択の方法		2年次 *から2単位選択 3年次 *から2単位選択							

補足

平成4年度から、月1回の学校週五日制実施

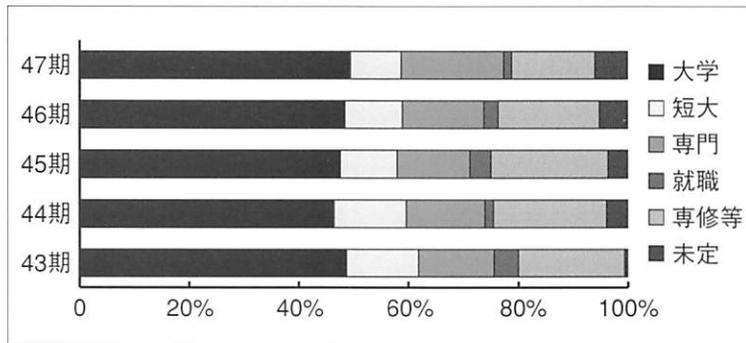
平成9年度から、月2回の学校週五日制実施

平成14年度より、学校週五日制が完全実施

同年度より、2学期制を導入
(年間を前期・後期と10月上旬で分け従来の3学期制とは異なる授業形態)
同年度より、週2回7限目授業実施
(週あたりの授業時間数32時間)

卒業生進路

過去5年間の進路状況



	43期	44期	45期	46期	47期
大学	188	182	187	170	175
短大	51	52	41	37	33
専門	53	56	52	52	66
就職	17	6	15	9	5
専修等	75	81	84	65	54
未定	2	15	14	18	21

卒業生の進路別統計

	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
	38期生	39期生	40期生	41期生	42期生	43期生	44期生	45期生	46期生	47期生
卒業生数	466	437	433	394	385	384	392	393	351	354
進学のみした者	288	302	297	288	289	292	304	296	265	274
進学も就職もした者	1	1	2	4	1	2	0	0	1	0
就職のみした者	12	16	5	18	14	15	6	15	8	5
その他	165	118	129	84	81	75	82	82	77	75

大学・短大・専門学校の合格状況

	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
国立大学	9	27	15	15	11	14	7	13	15	12
公立大学	13	16	13	7	4	4	4	6	5	6
私立大学	402	516	448	507	397	409	367	384	382	373
大学合計	424	559	476	529	412	427	378	403	402	391
文部省管轄外	1	0	3	2	0	0	1	4	0	0
国公立短大	5	4	3	4	5	2	3	5	1	0
私立短大	196	176	150	102	115	101	60	54	54	47
短大合計	201	180	153	106	120	103	63	59	55	47
専門学校等	56	68	71	65	68	74	82	94	70	102
総計	682	807	703	702	600	604	524	560	527	540

就職状況

	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
	38期生	39期生	40期生	41期生	42期生	43期生	44期生	45期生	46期生	47期生
公務員	5	6	3	7	10	12	4	8	3	3
民間	8	11	4	15	5	5	2	7	6	2
合計	13	17	7	22	15	17	6	15	9	5

過去5年の就職先例（公務員）

大阪市の事務
 大阪市の学校事務
 大阪市の消防
 国家Ⅲ種（税務）
 裁判所事務官（Ⅲ種）
 大阪府警
 郵政公社

専門学校（医療系）合格先例

国立大阪南病院附属看護学校
 大阪警察病院看護専門学校
 大阪済生会中津看護専門学校
 大阪鉄道病院高等看護学院
 住友病院附属高等看護学院
 国立大阪病院附属看護助産学校
 近畿医療技術専門学校

卒業生の進路別統計

[国公立大学]

	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	合計
大阪教育大学	1	4	2	7	1	4	2	1	1	1	24
神戸商船大学	1	2	3	0	0	0	1	0	1	0	8
和歌山大学	1	4	1	0	1	1	1	3	2	1	15
鳥取大学	1	1	3	3	0	2	1	1	1	0	13
大阪府立大学	2	3	0	1	1	0	1	2	3	2	15
大阪市立大学	3	4	2	1	1	2	2	0	0	3	18

備考 その他の合格大学

- ・北海道大学
- ・東北大学
- ・東京芸術大学
- ・大阪大学
- ・大阪外国語大学
- ・奈良教育大学
- ・京都府立医科大学
- ・奈良県立医科大学

[私立大学]

京都産業大学	7	11	8	16	10	21	4	9	5	10	101
同志社大学	7	9	11	6	5	3	7	9	15	9	81
立命館大学	12	6	15	11	17	17	13	8	12	16	127
龍谷大学	16	32	16	31	19	20	15	39	36	38	262
大阪芸術大学	2	14	7	14	12	11	12	6	11	11	100
大阪工業大学	11	28	17	13	13	20	13	14	15	15	159
追手門学院大学	16	15	11	9	6	5	8	5	5	0	80
関西大学	31	50	23	43	35	47	30	38	51	63	411
関西外国語大学	3	1	2	5	7	8	15	16	13	15	85
近畿大学	45	73	79	78	59	45	75	53	59	49	615
四天王寺国際仏教大学	6	6	18	13	10	16	9	11	11	9	109
摂南大学	19	35	28	25	12	12	10	13	9	3	166
桃山学院大学	11	16	15	22	18	41	28	41	23	17	232
関西学院大学	5	5	10	2	6	13	6	12	16	21	96
甲南大学	7	18	10	9	14	14	18	11	3	7	111
武庫川女子大学	10	8	9	10	11	5	3	6	5	6	73

[国公立短期大学]

大阪市立大学看護短	0	0	0	2	1	1	1	2	1	0	8
大阪府立看護大学医	1	0	1	0	2	0	1	1	0	0	6

[私立短期大学]

大阪音楽大学短	1	4	1	1	4	0	2	0	4	0	17
大阪キリスト教短期大学	3	4	0	3	3	3	3	2	4	2	27
大阪女学院短期大学	1	2	1	0	2	4	1	1	5	3	20
関西外国語大学短	11	16	17	16	13	21	14	11	4	11	134
四天王寺国際仏教大学短	6	7	10	13	8	25	5	6	4	8	92
常磐会短期大学	9	2	5	8	6	5	7	3	4	1	50
武庫川女子大学短	21	18	25	14	11	11	4	10	13	7	134

担任一覽

3 年 生 (卒業) 担 任

	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組	8 組	9 組	10組	11組	12組
1 期生	肥田 耕也 西内 裕子	保田 光男 広田 久夫	塚本 盛治 岡本 昇									
2 期生	竹内 清 岡田 淑子	堀田 義一 倉西 博之	塚本 盛治 三木 雅文									
3 期生	鶴見 光男	西内 裕子	吉田 嘉高	栗本 栄三	吉門 章	広田 久夫						
4 期生	橋本 久弥	中谷 肇	赤尾 整志	高橋 哲也	岡本 昇	西川 純一	中洲 陽一	筒井 謙二				
5 期生	肥田 耕也	日下 義忠	細川 方子	阿部 保男	中原 晃雄	中谷 肇	吉門 章	山岸 正孝				
6 期生	岡田 淑子	竹内 清	堀田 義一	三木 雅文	矢野喜久男	船津 末年	保木 幸雄	亀田 弘				
7 期生	橋本 久弥	筒井 謙二	栗本 栄三	小林 喬	染田 一郎	田代 徹也	広田 久夫	塚本 盛治				
8 期生	西川 純一	宮井 隆	豊永 彰	三木 雅文	鶴見 光男	室井 勝弥	広瀬 武成	小林 喬	阿部 保男			
9 期生	吉門 章	船津 末年	湯浅 明	大塚 隆	竹内 清	岡本 昇	亀田 弘	赤尾 整志	中谷 昇	染田 一郎	中原 晃雄	
10期生	国定 祐一	木下 透	天野 浩	前田 史夫	堀田 義一	田代 徹也	小林 義次	篠田 暎一	広田 久夫	斉藤 暁	塚本 盛治	
11期生	山中 茂樹	田中 譲	赤尾 整志	末光 文雄	深谷 実	三木 雅文	筒井 謙二	西内 裕子	岡本 昇	斉藤 暁	森本 憲夫	
12期生	福村 修一	藤田 幸生	北守 彦雄	横山 篤夫	堂山 浩	吉田 正博	青谷 正麿	阿部 保男	大塚 隆	片山 尚美		
13期生	湯浅 明	吉野 勇二	中谷 肇	染田 一郎	中原 晃雄	小林 義次	武藤 剛	保田 光男	亀田 弘	森嶋 徳文		
14期生	吉門 章	竹内 清	大塚 隆	田代 徹也	水谷 豊	岡本 昇	室井 勝弥	塚本 盛治	船津 末年	原田 研一		
15期生	田中 譲	堀田 義一	岡垣 修	津田 雄三	角森雅次郎	青谷 正麿	広瀬 武成	斉藤 暁	木下 透	篠田 暎一		
16期生	大谷 雄一	土井 武文	筒井 謙二	山中 茂樹	吉野 勇二	染田 一郎	北守 彦雄	小林 義次	森嶋 徳文	福村 修一		
17期生	中原 晃雄	横山 篤夫	深谷 実	中谷 肇	根本 七郎	安森 譲	森本 憲夫	湯浅 明	塚本 盛治	船津 末年		
18期生	田中 譲	奥舎 憲雄	岡田 淑子	吉田 正博	大塚 隆	久保 淳子	吉門 章	竹内 清	広瀬 武成	五島 満朗	水谷 豊	
19期生	保田 光男	柿沼 皋	武藤 剛	青谷 正麿	角森雅次郎	河野 明	赤堀 修一	中原 円	槌谷 啓子	田中 健一	福村 修一	
20期生	井上 幸夫	山崎 博	押村 利明	渡辺宗治郎	芝野 新	吉川 盛久	高木 孝司	水谷 豊	井上 保治	五島 満朗	森嶋 徳文	
21期生	西内 裕子	江原 基雄	武田 透	山本 真次	森下 健	富田 明嗣	小林 義次	粟屋 善博	兵庫 将夫	筒井 謙二		
22期生	奥舎 憲雄	吉門 章	船津 末年	柴山 恵子	片山 尚美	高辻 道久	田中 勝	吉田 正博	森本 憲夫	小川 孝三		
23期生	田村 恵子	広瀬 武成	押村 利明	道田 芳伸	山崎 博	大塚 隆	坂元 秀孝	浜村 茂	角森雅次郎	武藤 剛	森嶋 徳文	
24期生	河野 陽子	五島 満朗	角森雅次郎	藤井 吉雄	清 富佐子	田中 章夫	福村 修一	小林 義次	赤堀 修一	吉門 章	田中 健一	塚田 士信

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組	9組	10組	11組	12組
25期生	柿沼 皋	水谷 豊	青谷 正磨	根本 七郎	水野 行範	江原 基雄	清水 茂勝	吉田 正博	松川 暉	喜多 啓二	松浦 紀彦	保田 光男
26期生	天岸 美子	高木 孝司	粟屋 善博	山本 真次	岡田 淑子	山本 教彦	中條 健次	船津 末年	中田 昌美	吉川 盛久	井上 保治	井上 幸夫
27期生	筒井 謙二	森下 健	牧 文男	石上 知良	富田 明嗣	増田 正雪	小林 義次	西内 裕子	彼谷 利彬	森本 憲夫	武田 透	兵庫 将夫
28期生	森口 匡	松浦 紀彦	道田 芳伸	青谷 正磨	山崎 博	片山 尚美	田口 順一	北脇 洋子	柴山 恵子	高辻 道久	福村 修一	小川 孝三
29期生	河野 陽子	吉門 章	牧 文男	岡田 淑子	中田 昌美	清 富佐子	水野 行範	田中 健一	浜村 茂	小野 利明	森嶋 徳文	松井 熙
30期生	喜多 啓二	伊藤 裕康	西野小枝子	清水 茂勝	梶 紳也	林原 親多	田中 章夫	近藤 富久	川口 千代	杉山 栄一	塚田 士信	西村 隆男
31期生	吉川 盛久	船津 末年	関谷 学	寺田 正尚	片山 尚美	八木 正憲	田村 恵子	村尾 健次	柿沼 皋	山嵜 真也	石上 知良	森田 隆文
32期生	坂本 牧子	浅田 知里	藤井 豊明	河内 節夫	東原 初恵	福村 修一	山田 慶文	馬野 寿美	村上 陽子	斎部 幸則	庄田 保雄	中村 伸行
33期生	川上 俊次	中川 明則	武田 透	宮本 一夫	彼谷 利彬	大上真紗世	北脇 洋子	中尾 修	安宅 充	池田 一博	水野 広治	塚田 士信
34期生	柴山 恵子	浜村 茂	河内 節夫	新村 理文	中島 裕司	富田 昇	松村 豊	阿川 博美	北橋 恭子	関谷 学	森口 匡	萬代 昇
35期生	松井 熙	小野 利明	根本 七郎	宮本 一夫	山崎 博	仲 慶滋	飯国 章子	林原 親多	川口 千代	森本 均	古野 弘	斉藤 信雄
36期生	藤井 豊明	柿沼 皋	前田 静男	丹波三千代	伊藤 裕康	杉山 栄一	八木 正憲	寺田 正尚	近藤 富久	八尾 幹夫	喜多 啓二	平井 文徳
37期生	村尾 健次	坂井 章吾	林原 親多	山田 慶文	吉波 伸治	田代 貢	松井美智子	山本 伸子	大上真紗世	森田 隆文	滝沢 正俊	西村 隆男
38期生	武田 透	丸山 互	松田 研一	池田 一博	斎部 幸則	田中 康之	浅田 知里	金子 典代	田中 賢一	安宅 充	谷口 真	
39期生	森 淳一	中川 明則	小林 秀彦	小林 由佳	松村 豊	坂本 信子	川口 千代	横井 弓子	杉村 勇二	河内 節夫	樋口 明	
40期生	柴原 正光	山田 慶文	菊池 一人	緒方 都	飯国 章子	中尾 修	池嶋 伸晃	政 真由美	滝沢 正俊	森本 均	田中 賢一	
41期生	南 慧子	牛島 毅	坂井 章吾	八尾 幹夫	三宅 寿美	大上真紗世	丹波三千代	大西 義博	前田 静男	北橋 恭子		
42期生	溝部 和彦	重松祐三子	金子 典代	勝 康佑	吉波 伸治	森 淳一	梅須磨源博	平井 文徳	斉藤 信雄	杉村 勇二		
43期生	仲谷 和泰	宇都宮裕子	古野 弘	富田 昇	奥野 泰孝	政 真由美	近藤 昌宏	西沢 宏一	横井 弓子	三好 重典		
44期生	谷 よしえ	松村 光庸	松井美智子	高橋 正雄	山田 慶文	近藤 昌宏	千原加容子	亀田久美子	松田 研一	金戸 道明		
45期生	三上 和久	平井 文徳	坂本 信子	田内 成人	早川ひろみ	柴田 潤子	松矢 諱和	田代 貢	山上 進	田中 賢一		
46期生	中坂 玲子	田中 秀和	松村 光庸	西尾 明保	千原加容子	横井 弓子	羽山 健一	樋口 明	杉村 勇二			
47期生	莊司 達雄	谷 よしえ	富士 義幸	吉田 允彦	吉波 伸治	菊池 一人	尾内 幸子	和田 吉夫	泉谷比呂志			
48期生	田内 成人	奥野 泰孝	楢垣 修	中山 博典	宇都宮裕子	松田 研一	木村 良	仲谷 和泰	金戸 道明			

現旧職員一覧

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
青谷 正麿	教諭	国語	S40.4.1	S61.3.31
赤尾 整志	教諭	理科	S30.4.1	S44.3.31
赤堀 修一	教諭	芸術	S47.4.1	S59.3.31
阿川 博美	教諭	社会	S62.4.1	H10.3.31
浅井いづみ	主事		H6.4.16	H12.4.27
浅田 知里	教諭	国語	S60.4.1	H8.3.31
朝本 裕子	講師	国語	S61.4.1	S62.3.31
安宅 充	教諭	国語	S61.4.1	H10.3.31
阿部 保男	教諭	数学	S32.4.1	S47.3.31
天岸 美子	教諭	国語	S54.4.1	S60.3.31
天野 浩	教諭	保体	S32.4.1	S42.3.31
天野 豊	主事		H2.4.16	H10.4.15
荒木 清	教諭	保体	H5.4.1	H10.3.31
粟屋 善博	教諭	社会	S50.4.1	S60.3.31
飯国 章子	教諭	国語	S63.4.1	H11.3.31
池嶋 伸晃	教諭	英語	H5.4.1	H11.3.31
池田 一博	教諭	理科	S61.4.1	H9.3.31
池田 美穂	事務補		S50.4.1	S54.3.31
池田佳代子	教諭	英語	H14.4.1	
池辺 義教	教諭	社会	S31.4.1	S33.3.31
石上 和良	教諭	理科	S54.4.1	H元.3.31
石橋 一	教頭		S57.4.1	S58.3.31
泉谷比呂志	教諭	数学	H12.4.1	
泉 悌二	教諭	英語	S32.4.1	S35.3.31
市川 武彦	事務補		S32.4.1	S36.3.31
井出ゆり子	教諭	数学	S54.4.1	S55.3.31
伊藤 裕康	教諭	国語	S58.4.1	H6.3.31
伊藤 牧子	教諭	英語	S60.4.1	H2.3.31
伊藤 義臣	主事		S38.4.1	S51.3.31
伊藤久美子	養護教諭	保健	H13.4.1	
稲葉 安栄	養護教諭		S30.4.1	S49.3.31
稲元 信佳	主査		H3.5.21	H6.3.31
井上 悦男	事務長		S60.4.1	H元.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
井上 純子	教諭	国語	S47.4.1	S49.3.31
井上 保治	教諭	数学	S49.4.1	S63.3.31
井上 幸夫	教諭	国語	S48.4.1	S62.3.31
井上 良治	教頭		S45.4.1	S49.3.31
茨木美代子	実習助手		S30.4.1	H9.3.31
岩本 明	主事		S34.4.1	S35.3.31
斎部 幸則	教諭	社会	S60.4.1	H9.3.31
植阪千衣子	教諭	英語	S51.4.1	S62.3.31
上田 卓也	技師		S59.4.1	H15.3.31
宇佐美和恵	講師	英語	H13.4.1	H15.3.31
牛島 毅	教諭	理科	H8.4.1	
宇田 章	主事		S35.4.1	S37.3.31
宇都宮裕子	教諭	英語	H8.4.1	
梅須磨源博	教諭	保体	H7.4.1	H16.3.31
梅本 典子	事務補		S35.4.1	S39.3.31
浦野卯一郎	事務長		S39.4.1	S41.3.31
江原 基雄	教諭	国語	S50.4.1	S59.3.31
延命 輝光	教諭	社会	H16.4.1	
大上真紗世	教諭	音楽	S61.4.1	H14.3.31
大柴 繁	教諭	英語	S34.4.1	S36.3.31
大須賀孝彦	講師	英語	S62.4.1	S63.3.31
大田 俊明	教諭	社会	H10.4.1	
太田 礼子	講師	社会	2004.4.8	
大谷 雄一	教諭	社会	S45.4.1	S50.3.31
大塚 純子	教諭	書道	S55.4.1	S60.3.31
大塚 隆	教諭	社会	S40.4.1	S58.3.31
大辻 聡子	教諭	英語	S56.4.1	S59.3.31
大西 義博	教諭	保体	H5.4.1	H13.3.31
大庭美代治	事務長		H元.4.1	H4.3.31
岡垣 修	教諭	理科	S43.4.1	S47.3.31
岡田 真二	主事		H3.5.27	H9.4.16
緒方 都	教諭	家庭	H5.4.1	H12.3.31
岡田 淑子	教諭	保体	S32.4.1	S61.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
岡本 修治	教諭	理科	S38.4.1	S45.3.31
岡本 昇	教諭	英語	S30.4.1	S49.3.31
小川 孝三	教諭	理科	S50.4.1	S62.3.31
尾北 春彦	技能員		S60.4.1	H5.7.10
奥舎 憲雄	教諭	社会	S46.4.1	S59.3.31
奥野信太郎	校務員		S30.5.1	S52.3.31
奥野 泰孝	教諭	美術	H8.4.1	
押村 利明	教諭	英語	S46.4.1	S58.3.31
音川須美子	教諭	数学	S60.4.1	S61.3.31
小野 利明	教諭	数学	S57.4.1	H4.3.31
小野 雄三	教諭	理科	S30.4.1	S33.3.31
尾内 幸子	教諭	英語	H11.4.1	
蛭田美穂子	教諭	英語	H16.4.1	
柿沼 皋	教諭	英語	S49.4.1	H6.3.31
加久田裕之	主事		S47.4.16	S54.4.16
影山 恵則	教諭	英語	H15.4.1	H16.3.31
梶 紳也	教諭	英語	S58.4.1	S62.3.31
片山 尚美	教諭	保体	S39.4.1	H5.3.31
勝 康侑	教諭	国語	H7.4.1	
加藤 文雄	主事		S30.11.1	S34.3.31
加藤三知代	主事		S54.4.16	S58.4.15
金子 典代	教諭	英語	H3.4.1	H12.3.31
金戸 道明	教諭	数学	H9.4.1	
亀田久美子	教諭	国語	H8.4.1	
亀田 弘	教諭	数学	S34.4.1	S48.3.31
亀田 弘	校長		S58.4.1	S61.3.31
彼谷 利彬	教諭	社会	S55.4.1	H2.3.31
梶野 尚	教諭	数学	S38.4.1	S39.3.31
川上 俊次	教諭	数学	S61.4.1	H9.3.31
川口 千代	教諭	英語	S58.4.1	H12.3.31
川口 吾一	教諭	書道	S37.4.1	S46.3.31
河内 節夫	教諭	社会	S60.4.1	H8.3.31
川端 晴美	事務補		S40.4.1	S44.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
川端きよみ	主査		H15.4.1	H16.3.31
川原 久衛	教諭	理科	S50.4.1	S53.3.31
菊池 一人	教諭	保体	H5.4.1	
菊池 通夫	校長		S48.4.1	S54.3.31
喜多 啓二	教諭	数学	S53.4.1	H5.3.31
北辻 要	校長		S54.4.1	S58.3.31
北橋 恭子	教諭	数学	S61.4.1	H10.3.31
北村 福子	主事		S32.4.1	S46.3.31
北村勇一郎	主担主事		H9.4.16	H13.4.15
北守 彦雄	教諭	理科	S38.4.1	S48.3.31
北脇 洋子	教諭	社会	S55.4.1	H4.3.31
木下 透	教諭	国語	S38.4.1	S50.3.31
木村 憲太	講師	理科	S62.4.1	S63.3.31
木村 好孝	教諭	英語	S47.4.1	S51.3.31
木村 良	教諭	理科	H13.4.1	
清富 佐子	教諭	社会	S52.4.1	H2.3.31
久下 英孝	教諭	体育	H14.4.1	
日下 義忠	教諭	数学	S33.4.1	S40.3.31
櫛笥 隆弘	教諭	理科	S42.4.1	S44.3.31
工藤 貴彦	技能員		H9.4.1	H13.3.31
国貞 祐一	教諭	国語	S38.4.1	S50.3.31
久保 貞夫	校長		H10.4.1	H14.3.31
久保 淳子	教諭	国語	S49.4.1	S52.3.31
倉西 博之	教諭	国語	S32.4.1	S38.3.31
栗栖まり子	教諭	国語	S46.4.1	S47.3.31
栗本 栄三	教諭	英語	S30.4.1	S42.3.31
黒田 道寿	教諭	社会	H2.4.1	H3.3.31
桑垣 英夫	事務長		H10.4.1	H13.3.31
桑原 正光	教諭	社会	H5.4.1	
河野 明	教諭	社会	S47.4.1	S53.3.31
河野 利男	事務長		H6.4.1	H10.3.31
河野 陽子	教諭	国語	S51.4.1	H元.4.1
小阪 義三	教諭	数学	H16.4.1	

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
小島 悦子	実習助手		S31.4.1	S35.3.31
五島 満朗	教諭	理科	S48.4.1	S58.3.31
小西 賢治	講師	社会	S49.4.1	S51.3.31
小林 喬	教諭	英語	S35.4.1	S43.3.31
小林 秀彦	教諭	保体	H3.4.1	H14.3.31
小林 仁	講師	音楽	S60.4.1	S61.3.31
小林 由佳	教諭	家庭	H4.4.1	H8.4.1
小林 義次	教諭	英語	S38.4.1	S63.3.31
小松 聡子	実習助手		S39.4.1	
小松 素雄	教諭	社会	S34.4.1	S38.3.31
小松 純子	教諭	英語	H15.4.1	
小山由美子	主事		S40.4.1	H7.5.22
近藤 富久	教諭	書道	S59.4.1	H9.3.31
近藤 昌宏	教諭	理科	H8.4.1	H15.3.31
斎藤 暁	教諭	理科	S38.4.1	S45.3.31
斎藤 貫	校長		S42.4.1	S45.3.31
斎藤 信雄	教諭	理科	S63.4.1	H11.3.31
齊藤 善之	教諭	社会	H14.4.1	H15.3.31
坂井 章吾	教諭	英語	H2.4.1	H15.3.31
坂本 信子	教諭	数学	H4.4.1	
坂元 秀孝	教諭	音楽	S42.4.1	S58.3.31
佐藤 則之	技師		H16.4.1	
三田 和美	教諭	数学	S50.4.1	S53.3.31
重松祐三子	教諭	英語	H5.4.1	H15.3.31
志々田邦明	教頭		S53.4.1	S57.3.31
至田英利香	養護助教		H11.4.1	H12.8.31
篠田 映一	教諭	数学	S39.4.1	S49.3.31
柴田 潤子	教諭	国語	H8.4.1	
芝野 新	教諭	社会	S50.4.1	S52.3.31
柴山 恵子	教諭	英語	S50.4.1	H3.3.31
嶋地 孝行	事務長		H15.4.1	
嵩野 充恵	実習助手		S35.4.1	S36.3.31
清水 茂勝	教諭	社会	S53.4.1	H元.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
庄田 保雄	教諭	数学	S60.4.1	H3.3.31
末光 文雄	教諭	国語	S39.4.1	S45.3.31
杉江 正美	教諭	音楽	S35.4.1	S42.3.31
杉田悦太郎	技能員		S49.4.1	S59.3.31
杉村 友子	主事		S42.4.1	S56.4.16
杉村 勇二	教諭	数学	H3.4.1	H15.3.31
杉山 栄一	教諭	数学	S58.4.1	H9.3.31
杉山 治	主事		S37.4.1	S38.3.31
鈴木佐代子	技師		H4.4.1	H16.3.31
鈴木 広志	教諭	社会	S52.4.1	S54.3.31
関谷 学	教諭	理科	S59.4.1	H6.3.31
瀬島 千代	養護助教		S61.4.1	S62.3.31
荘司 達雄	教諭	国語	H11.4.1	
染田 一郎	教諭	国語	S35.4.1	S48.3.31
染矢 一誠	講師		2004.4.1	
大黒 和雄	校長		H6.4.1	H10.3.31
田内 成人	教諭	保体	H10.4.1	
高井 郁子	実習助手		S33.4.1	H12.3.31
高木 孝司	教諭	保体	S47.4.1	S61.3.31
高木 隆	校長		S45.4.1	S48.3.31
高木 隆	教頭		S39.4.1	S45.3.31
高辻 道久	教諭	社会	S50.4.1	S63.3.31
高橋実太郎	事務長		S46.4.1	S51.3.31
高橋 哲也	教諭	国語	S33.4.1	S39.3.31
高橋 正雄	教諭	社会	H9.4.1	
滝沢 正俊	教諭	数学	H2.4.1	H14.3.31
滝本 哲夫	教諭	国語	S45.4.1	S48.3.31
田口 順一	教諭	英語	S49.4.1	S60.3.31
田口 照男	主査		H元.4.1	H3.5.21
竹内 清	教諭	国語	S30.4.1	S51.3.31
武田 透	教諭	保体	S38.4.1	H11.3.31
竹田 義治	技師		H2.4.1	H4.3.31
竹綱 久次	教諭	数学	H10.4.1	H16.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
竹綱 久次	教頭	数学	H16.4.1	
竹原 秋夫	主査		S52.4.1	S54.3.31
武部 正夫	教頭		H7.4.1	H10.3.31
竹村 茂	講師	美術	S49.4.1	S50.3.31
田代 徹也	教諭	社会	S37.4.1	S52.3.31
田代 貢	教諭	理科	H2.4.1	H16.3.31
立道 清美	主事		S39.4.1	S43.3.31
田中 章夫	教諭	保体	S52.4.1	H3.3.31
田中 一人	主事		S54.4.16	S61.4.14
田中 和美	教諭	音楽	S58.4.1	S60.3.31
田中 賢一	教諭	数学	H3.4.1	
田中 健一	教諭	数学	S47.4.1	S61.3.31
田中 貞子	実習助手		S36.4.1	S39.3.31
田中 努	講師	社会	H元.4.1	H2.3.31
田中 淑	教諭	数学	S48.4.1	S51.3.31
田中 範子	講師	家庭	H8.4.1	H9.3.31
田中 秀和	教諭	保体	H11.4.1	
田中 勝	教諭	国語	S50.4.1	S55.3.31
田中 康之	教諭	国語	H3.4.1	H15.3.31
田中 讓	教諭	社会	S39.4.1	S52.3.31
谷 勲	教諭	美術	S40.4.1	S41.3.31
谷 よしえ	教諭	書道	H9.4.1	
谷口 真	教諭	英語	H3.4.1	H14.8.31
谷本 恒雄	教諭	社会	H7.4.1	H10.3.31
田之上 修	主担主事		H10.4.16	
田村 恵子	教諭	国語	S51.4.1	S63.3.31
千原加容子	教諭	家庭	H9.4.1	
茶谷 治子	実習助手		S39.4.1	S55.3.31
塚田 士信	教諭	理科	S51.4.1	H4.3.31
塚本 盛治	教諭	理科	S30.4.1	S51.3.31
津田 雄三	教諭	英語	S43.4.1	S50.3.31
土田田鶴子	教諭		S38.4.1	S39.3.31
樋谷 啓子	教諭	理科	S47.4.1	S52.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
筒井 謙二	教諭	数学	S32.4.1	S60.3.31
角森雍二郎	教諭	社会	S45.4.1	S58.3.31
鶴崎 篤	教諭	数学	S63.4.1	H2.3.31
鶴見 光雄	教諭	国語	S30.4.1	S52.3.31
寺田 正尚	教諭	社会	S59.4.1	H5.3.31
土井 武文	教諭	英語	S43.4.1	S50.3.31
堂山 浩	教諭	英語	S40.4.1	S46.3.31
堂山 太三	技師		H15.4.1	
戸塚紀代子	特別嘱託	事務	H10.4.1	H13.3.31
富田 明嗣	教諭	国語	S51.4.1	S61.3.31
富田 昇	教諭	国語	S62.4.1	H12.3.31
豊永 彰	教諭	英語	S36.4.1	S43.3.31
仲 慶謚	校長		H14.4.1	H15.8.18
仲 慶謚	教頭	社会	H10.4.1	H14.3.31
仲 慶謚	教諭	社会	S63.4.1	H10.3.31
長井有紀子	主担主事		H12.4.27	
中尾 修	教諭	国語	S61.4.1	H9.3.31
中岡 照夫	教諭	英語	H16.4.1	
中川 明則	教諭	英語	S62.4.1	H10.3.31
中坂 玲子	教諭	国語	H10.4.1	
中島 啓子	教諭	理科	S51.4.1	S52.3.31
中島 裕司	教諭	英語	S63.4.1	H8.3.31
中條 健次	教諭	理科	S53.4.1	S60.3.31
中洲 陽一	教諭	理科	S31.4.1	S38.3.31
中田 哲史	校長		H元.4.1	H6.3.31
中田 昌実	教諭	理科	S54.4.1	H2.3.31
中田 康夫	講師	保体	H4.4.1	H6.3.31
仲谷 和泰	教諭	社会	H8.4.1	
中谷 肇	教諭	英語	S33.4.1	S51.3.31
中出 昇	講師	社会	S58.4.1	S59.3.31
中出 昇	教諭	社会	H15.4.1	
中野裕美子	講師	英語	S59.4.1	S60.3.31
中原 晃雄	教諭	社会	S33.4.1	S50.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
中原 円	教諭	理科	S47.4.1	S54.3.31
中村 繁子	養護教諭		S33.4.1	S50.3.31
中村 信行	教諭	保体	S61.4.1	H10.3.31
中山 博典	教諭	保体	H13.4.1	
並松 洋史	講師	英語	H15.4.1	
成山 治彦	校長	国語	H15.2.7	H15.3.31
新村 理文	教諭	保体	S61.4.1	H5.3.31
西井由利子	講師	国語	S50.4.1	S51.3.31
西内 裕子	教諭	家庭	S30.4.1	S59.3.31
西尾 明保	教諭	理科	H11.4.1	
西川 純一	教諭	理科	S32.4.1	S40.3.31
二敷 寛治	教頭		H14.4.1	H16.3.31
西澤 宏一	教諭	社会	H8.4.1	H14.3.31
西田外志江	教諭	社会	S46.4.1	S47.3.31
西野小夜子	教諭	国語	S52.4.1	H2.3.31
西野 正幸	主査		H6.4.1	H11.4.30
西村 隆男	教諭	理科	S58.4.1	H7.3.31
西村かおる	講師	英語	H12.4.1	H14.3.31
丹波三千代	教諭	国語	H元.4.1	H13.3.31
根本 七郎	教諭	理科	S42.4.1	H4.3.31
野並 利雄	校務員		S44.4.1	H2.3.31
野村 克世	実習助手	家庭	H12.4.1	
橋本 純子	教諭	数学	H16.4.1	
橋本 久弥	教諭	理科	S32.4.1	S42.3.31
橋本万里子	教諭	国語	S48.4.1	S51.3.31
蓮池 広子	書記		S33.4.1	S42.3.31
畑田 勇	教諭	理科	S48.4.1	S49.3.31
秦野 節司	教諭	理科	S36.4.1	S37.3.31
浜村 茂	教諭	保体	S49.4.1	H3.3.31
早川ひろみ	教諭	英語	H10.4.1	
林原 親多	教諭	社会	S58.4.1	H7.3.31
羽山 健一	教諭	社会	H10.4.1	
原 満重	技能員		S49.4.1	S54.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
原 郁子	教諭	音楽	H14.4.1	
原田 研一	教諭	理科	S40.4.1	S48.3.31
檜垣 修	教諭	国語	H12.4.1	
東野 勇	事務長		S41.4.1	S46.3.31
東原 初恵	教諭	家庭	S59.4.1	H5.3.31
東本 光広	講師	社会	S51.4.1	S52.3.31
樋上ひろ美	講師	家庭	H12.4.1	H15.3.31
樋口 明	教諭	理科	H4.4.1	
肥田 耕也	教諭	社会	S30.4.1	S40.3.31
日野 富和	事務長		H13.4.1	H15.3.31
兵庫 将夫	教諭	理科	S49.4.1	S62.3.31
平井 薫	教諭	国語	H13.4.1	
平井 文徳	教諭	保体	H3.4.1	H15.3.31
平瀬 明宣	講師	社会	S40.4.1	S41.3.31
平野 愛子	主事		S45.4.1	S50.3.31
広瀬 武成	教諭	数学	S32.4.1	S57.3.31
広田 久夫	教諭	数学	S31.4.1	S42.3.31
深谷 実	教諭	国語	S39.4.1	S51.3.31
吹上 健次	主査		S41.4.1	S47.3.31
福原千恵子	事務補		S35.4.1	S39.3.31
福村 修一	教諭	数学	S39.4.1	H2.3.31
福村 勝	講師	理科	S49.4.1	S50.3.31
富士 義幸	教諭	英語	H12.4.1	
藤井 豊明	教諭	理科	S60.4.1	H8.3.31
藤井 吉雄	教諭	国語	S52.4.1	S58.3.31
藤田 一郎	教諭	英語	S51.4.1	S56.3.31
藤田 幸生	教諭	英語	S39.4.1	S45.3.31
藤原 清二	校務員		S35.4.1	S44.3.31
藤原 友栄	実習助手		H9.4.1	
藤原美代子	養護助教		S48.4.1	S49.3.31
船津 末年	教諭	数学	S36.4.1	H4.3.31
古野 弘	教諭	数学	H2.4.1	H12.3.31
保木 幸雄	教諭	理科	S34.4.1	S40.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
細川 方子	教諭	国語	S34.4.1	S39.3.31
堀田 義一	教諭	英語	S31.4.1	S47.3.31
堀江駒太郎	校長		S30.4.1	S37.3.31
本多美津子	主事		S46.4.1	H6.4.18
前川 啓子	養護教諭		S52.4.1	H13.3.31
前田 静男	教諭	英語	H元.4.1	H14.3.31
前田 史夫	教諭	社会	S38.4.1	S45.3.31
牧 文男	教諭	英語	S56.4.1	H3.3.31
政真 由美	教諭	保体	H6.4.1	
増田 正雪	教諭	国語	S55.4.1	S61.3.31
町 淑子	教諭	国語	S42.4.1	S46.3.31
松井 寿一	主査		S61.4.1	H元.4.1
松井 熙	教諭	国語	S57.4.1	H5.3.31
松井美智子	教諭	国語	H2.4.1	H14.3.31
松浦 紀彦	教諭	理科	S53.4.1	S61.3.31
松尾 暁子	教諭	国語	S53.4.1	S54.3.31
松岡喜代治	教頭		S61.4.1	H2.3.31
松川 暉	教諭	英語	S52.4.1	S60.3.31
松田 研一	教諭	理科	H3.4.1	
松田 茂雄	技能員		H6.4.1	H9.3.31
松村 光庸	教諭	社会	H9.4.1	
松村 豊	教諭	国語	S62.4.1	H8.3.31
松本 晃	教諭	保体	S32.4.1	S38.3.31
松本 庄三	技能員		S54.4.1	S60.3.31
松本恵都子	講師	保体	H15.4.1	2003.9.27
松本 貴仁	教諭	数学	H14.4.1	
松矢 壽和	教諭	英語	H12.4.1	
丸山 互	教諭	数学	H3.4.1	H7.3.31
萬代 昇	教諭	理科	S62.4.1	H5.3.31
三上 和久	教諭	社会	H10.4.1	H14.3.31
三木 雅文	教諭	社会	S32.4.1	S44.3.31
三木 康晴	講師	保体	S56.4.1	S58.3.31
水谷タエ子	主事		H8.4.16	H10.4.15

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
水谷 豊	教諭	数学	S40.4.1	S61.3.31
水野 広治	教諭	数学	S62.4.1	H13.3.31
水野 行範	教諭	社会	S53.4.1	S62.3.31
水野 義博	教諭	体育	H14.4.1	
溝部 和彦	教諭	理科	H7.4.1	H12.3.31
三谷 和子	講師	英語	S63.4.1	H元.3.31
道田 芳伸	教諭	国語	S52.4.1	S60.3.31
港 博	教諭	理科	S38.4.1	S40.3.31
湊川 登	主査		H16.4.1	
南 慧子	教諭	理科	H5.4.1	H13.3.31
南要 太郎	事務長		S30.4.1	S34.3.31
嶺 陽子	教諭	理科	S53.4.1	S54.3.31
宮井 隆	教諭	社会	S35.4.1	S40.3.31
三宅 寿美	教諭	国語	S60.4.1	H11.3.31
宮田 明美	事務補		S49.4.1	S50.3.31
宮田早永子	教諭	家庭	H15.4.1	
宮部 治男	専任主事		H13.4.16	
宮本 一夫	教諭	英語	S60.4.1	H4.3.31
三好 三郎	事務長		S35.4.1	S39.3.31
三好 重典	教諭	数学	H8.4.1	H16.3.31
三好 實	事務長		S51.4.1	S56.3.31
武藤 剛	教諭	数学	S40.4.1	S58.3.31
宗像 輝	教諭	国語	S39.4.1	S42.3.31
村尾 健次	教諭	国語	S59.4.1	H7.3.31
村上 陽子	教諭	理科	S54.4.1	H3.3.31
村田 清	主査		S51.4.1	S52.3.31
村田 憲司	校長		H15.4.1	
室井 勝弥	教諭	保体	S34.4.1	S50.3.31
森 淳一	教諭	社会	H4.4.1	H13.3.31
森井 久夫	教頭		H4.4.1	H7.3.31
森口 匡	教諭	数学	S55.4.1	H3.3.31
森口 博子	実習助手		S30.4.1	S33.3.31
森下 健	教諭	社会	S49.4.1	S60.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
森嶋 徳文	教諭	理科	S40.4.1	S63.3.31
森田 隆文	教諭	保体	S58.4.1	H6.3.31
森本 憲夫	教諭	数学	S39.4.1	S59.3.31
森本 均	教諭	理科	S63.4.1	H10.3.31
森安 雄生	教諭	国語	H14.4.1	
八尾 幹夫	教諭	理科	H元.4.1	H12.3.31
八木 淳	講師	社会	H9.4.1	H10.3.31
八木 正憲	教諭	社会	S59.4.1	H8.3.31
安田 忠司	主事		S61.4.1	H3.5.27
保田 光男	教諭	保体	S30.4.1	S57.3.31
安福 茂	教諭	保体	S54.4.1	S57.3.31
安森 讓	教諭	英語	S45.4.1	S49.3.31
矢野喜久男	教諭	美術	S34.4.1	S39.3.31
矢野 清	教頭		S35.4.1	S39.3.31
矢野 清	教諭	数学	S30.4.1	S35.3.31
山内 種也	教頭		S49.4.1	S53.3.31
山上 進	教諭	理科	H10.4.1	
山岸 正孝	教諭	理科	S33.4.1	S38.3.31
山口 勤	事務長		S56.4.1	S60.3.31
山口 裕子	教諭	英語	S55.4.1	S56.3.31
山崎 浩和	教頭		H2.4.1	H4.3.31
山崎 博	教諭	芸術	S47.4.1	H6.3.31
山下 亨	主査		H11.5.1	H14.10.25
山唄 真也	教諭	数学	S59.4.1	H3.3.31
山田 純子	教諭	数学	S53.4.1	S55.3.31
山田 宣夫	主事		S30.5.1	S39.3.31
山田 信夫	主査		S39.4.1	S41.3.31
山田 慶文	教諭	英語	S60.4.1	H14.3.31
山中 勇	主査		S55.4.1	S61.3.31
山中 茂樹	教諭	英語	S38.4.1	S49.3.31
山中 善一	事務長		S34.4.1	S35.3.31
山野 正澄	校務員		S32.4.1	S49.3.31
山本 真次	教諭	英語	S47.4.1	S58.3.31

氏名	職名	教科	着任年月	転退職年月
山本 伸子	教諭	社会	H2.4.1	H9.7.24
山本 登	校長		S61.4.1	H元.3.31
山本 登	教頭		S58.4.1	S61.3.31
山本 教彦	教諭	社会	S54.4.1	S58.3.31
湯浅 明	教諭	理科	S39.4.1	S50.3.31
柚本 光三	校務員		S30.4.1	S47.3.31
横井 弓子	教諭	英語	H3.4.1	H16.3.31
横山 篤夫	教諭	社会	S40.4.1	S50.3.31
吉門 章	教諭	英語	S32.4.1	S63.3.31
吉川 進一	教諭	国語	S33.4.1	S52.3.31
吉川 豊子	実習助手		S47.4.1	S61.3.31
吉川 盛久	教諭	英語	S49.4.1	H5.3.31
吉田 允彦	教諭	国語	H11.4.1	
吉田 正博	教諭	理科	S40.4.1	S59.3.31
吉田 嘉高	教諭	社会	S30.5.1	S39.3.31
吉年 幸子	実習助手		S32.4.1	S33.3.31
吉波 伸治	教諭	社会	H2.4.1	H16.3.31
吉野 勇二	教諭	社会	S42.4.1	S49.3.31
葭原 泰雄	校長		S37.4.1	S42.3.31
吉本 正実	主事		S58.4.1	H2.4.16
和田 吉夫	教諭	理科	H12.4.1	
渡辺 直之	教諭	生物	H16.4.1	
渡辺宗治郎	教諭	保体	S48.4.1	S52.3.31
渡辺 宣行	事務長		H4.4.1	H6.3.31
渡辺 博美	事務補		S43.4.1	S45.3.31

学校近隣点描



針中野駅から学校までの道



駒川商店街



校歌にもある「びょうどう」



杭全神社の大楠



杭全神社の本殿



平野に古くからある全興寺



平野環濠跡



平野商店街



大念仏寺



中野鍼



針中野駅

記念事業報告

50周年記念事業概要

- 趣 旨 本校の創立50周年を記念し、今後のさらなる発展を期して記念事業を行う
- I 主 催 大阪府立東住吉高校 創立50周年記念事業実行委員会
- II 式典日時 2004（平成16）年10月23日（土）午後1時30分 祝賀会17時
- III 会 場 グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
大阪市北区中之島5丁目3-51
TEL 06-4803-5555
- IV 参加者 式典 在校生998名 卒業生 来賓 教職員
祝賀会 来賓 PTA 卒業生 教職員

V 記念事業（1）

〈式典次第〉	〈記念公演〉	〈祝賀会〉
開会の辞	①記念芸術鑑賞	開会の挨拶
国歌・校歌斉唱	大蔵流狂言「月見座頭」	祝辞
実行委員長挨拶	茂山千之助師 茂山あきら師	来賓紹介
学校長式辞		祝電披露
来賓祝辞	②学校の歴史回顧（スライド）	乾杯
来賓紹介	③生徒による舞台発表	謝辞など
祝電披露	i 芸能文化科生発表	閉会の挨拶
生徒代表の言葉	長唄「小鍛冶」芸能文化科3年生	
記念品贈呈	ii 吹奏楽部発表	
閉式の辞	曲目「アルメニアン・ダンスPart1」	
	iii コーラス発表（伴奏吹奏楽部）	
	曲目「ハレルヤ」「校歌」音楽選択者	

記念事業（2）

- 1 記念誌発行 A4判 160頁2000部
- 2 記念環境改善 クラブ部室建設 同窓会館一部改装
中央館教室10室、家庭科実習教室空調設置

VI 実行委員

- 委員長 辻 拓也（緑友会会長）
- 副委員長 橋本 道雄（PTA会長） 東新秀春（みどり会会長）
吉井 豊（後援会会長） 塩谷俊雄（緑友会副会長）
- 書記 黒田英津子（PTA書記）
- 会計 山本早苗（PTA会計）

委員

清水 一意（PTA副会長）	山内 正美（PTA副会長）	川谷さつき（PTA監査委員長）
川村 加代（PTA監査委員）	藤井 啓子（PTA監査委員）	田中伊津子（PTA監査委員）
溝口 弥生（PTA監査委員）	堀 久美（PTA監査委員）	能登 康宏（緑友会副会長）
飛地 勉（緑友会副会長）	脇田みどり（みどり会副会長）	三好眞由美（みどり会副会長）
松岡枝理子（みどり会会計）	相木 順子（みどり会書記）	井上 督三（みどり会監査）
多田美恵子（みどり会幹事）	妹尾籐右衛門（みどり会幹事）	石田オリエ（みどり会幹事）
分部 悦子（みどり会幹事）	戸田 治男（みどり会幹事）	吉田 清子（みどり会幹事）
山本 千草（前PTA役員）	石川 頼子（前PTA役員）	菊田千鶴子（前PTA役員）
吉田 幸三（前PTA役員）	鹿島 瑞江（前PTA役員）	吉田 正博（緑友会事務局）
田中あつ子（緑友会事務局）		

校内委員

村田 憲司（校長）	竹綱 久次（教頭）	嶋地 孝行（事務長）
牛島 毅	宇都宮裕子	勝 康佑
菊池 一人	久下 英孝	桑原 正光
坂本 信子	荘司 達雄	高橋 正雄
田中 賢一	谷 よしえ	早川ひろみ
原 郁子	藤原 友栄	松村 光庸
山上 進	吉田 允彦	湊川 登
宮部 治男		

編集後記

昨年の50周年記念誌編集委員会で、その骨子について二つのことを確認しました。一つは先業の10、25、40周年各記念誌をも視野に入れて、この10年間の記録を整理することにより、50周年(半世紀)という大きな節目としての締めくくりを果たすということでした。もう一つは、文章と写真を程よく配分して提供するということでした。

編集委員全員で分担作業を進め、それを編集局で一冊子に凝縮する段階に至ったとき、ひとりで「不易流行」という芭蕉の有名な言葉を思い出しました。それはこの半世紀の間に生徒も教職員もそして校舎などの環境も年々歳々変わっていきましたが、東住吉高校の根底にある建学以来の「自主創造の精神」だけは、常に新しい境地を求め、現在も脈々と受け継がれていることによるものです。この素晴らしい精神は、将来100周年を迎えたときにも、輝かしい伝統として、永遠の本質であり続けることでしょう。

50周年までの歴史を俯瞰した「東住吉50年の歩みと歴史を築いてきた人々」を第Ⅰ部として、「東住吉は今」を第Ⅱ部に、そしてその過去から現在までを振り返ると共に、そこから未来を展望するという企画の「座談会」を第Ⅲ部にしました。最後に諸々の資料を添えて、全体として50年の星霜をまとめる体裁になっています。

刊行に至るまでには、同窓会、PTA、みどり会等々の多方面から協力をいただきました。玉稿をお寄せいただいた方々、座談会に参加していただいた方々、資料を提供していただいた方々、快く多くの写真を提供していただいた三木写真工藝社、そして制作担当の出版樹々のスタッフの方々等々の尽力で完成しました。

ここに心より深くお礼申し上げます。

大阪府立東住吉高等学校ホームページ案内

<http://www.osaka-c.ed.jp/higashisumiyoshi/>

Welcome To Our Home Page !!

- | | | | |
|-------------|----------|---------|---------|
| ○TopPage | ○教育方針・沿革 | ○学校教育計画 | ○普通科 |
| ○芸能文化科 | ○進路状況 | ○学校行事 | ○クラブ活動 |
| ○学校教育自己診断結果 | | ○同窓会 | ○PTA |
| ○付近地図 | ○NPO | ○リンク | ○e-mail |

発行日 平成16年10月1日
発行 大阪府立東住吉高等学校
〒547-0033
大阪市平野区平野西2-3-77
TEL 06-6702-3838
編集 創立50周年記念誌編集委員会

制作 出版樹々 記念誌制作室
〒569-0844
大阪府高槻市柱本3-12-3
TEL 072-677-5171
印刷 株式会社 日東印刷

